

指導の手引き

学びと育ちをつなぐ アプローチカリキュラムの作成



兵庫県教育委員会

はじめに

平成29年3月に新しい幼稚園教育要領が示されました。その中で、幼稚園から高等学校までの各学校段階を通じて系統的に育てていくという観点から、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」が示されました。これは、これからの時代を生きていく上で必要な資質・能力を3つの柱で整理したものであり、幼児期はその基礎を培うこととされています。また、幼児期の学びと小学校以降の学びをつなげる視点で整理された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領が示す5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通じ、5歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿として示されています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、小学校入学以降に育っていく姿につながることが望まれます。言い換えれば、幼児期の学びを小学校以降の教育に見通しをもってつなげていくこと、すなわち、学びの連続性の確保が求められます。そのためには、小学校との連携体制の構築が必要となってきます。

しかしながら、幼児期の教育と小学校教育は、その教育課程の構成原理や指導方法等の違いから、幼児期の学びの過程が見えにくくなっており、相互理解が進んでいないのが現状です。そこで、小学校教育とのつながりを意識した接続期の教育課程であるアプローチカリキュラムの作成や、それをもとにした幼小連携の工夫が必要となっています。

本県では、平成27年度から幼児教育支援事業として、アプローチカリキュラムの作成に係る研究に取り組んできました。平成27年度は、幼児理解を深めるプロセスについての研究として、保育記録の取り方や記録の省察の仕方、記録を通じた保育カンファレンスの在り方等を明らかにしました。平成28年度は、実践記録から可視化した5歳児後半の学びを、3つの資質・能力に分類し、整理することで「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を明らかにする研究を行ってきました。これらの研究を踏まえ、今年度は、アプローチカリキュラムの作成や検証、アプローチカリキュラムを活用した幼小連携の工夫等について研究を進めてきました。

本冊子は、この研究の成果のまとめとして、実践協力園における取組を中心に、アプローチカリキュラム作成に関するポイントや留意事項等を示しています。今後、各市町において、地域や各園の実情に応じたアプローチカリキュラム作成の取組が推進され、それが幼小の円滑な学びの接続へとつながることを願っています。

最後になりましたが、本書を作成するにあたり、ご協力をいただいた幼児教育支援委員会及び実践協力園の皆様に深く感謝を申し上げます。

平成30（2018）年3月

兵庫県教育委員会

もくじ

I 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けて～アプローチカリキュラムの活用～	
1 アプローチカリキュラムとは・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 接続期における課題・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 課題解決に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・	3
II 研究内容	
1 これまでの研究から・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2 今年度の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・	5
III アプローチカリキュラムの作成について	
1 アプローチ期の設定について・・・・・・・・・・・・・・・・	6
2 作成の手順について・・・・・・・・・・・・・・・・	7
3 幼児期において育みたい資質・能力について・・・・・・・・	8
実践協力園の取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・	10
IV 作成したアプローチカリキュラムの検証・修正について	
1 検証方法について・・・・・・・・・・・・・・・・	14
2 検証の視点について・・・・・・・・・・・・・・・・	15
3 修正について・・・・・・・・・・・・・・・・	15
実践協力園の取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・	16
V 幼小連携の工夫について	
1 アプローチカリキュラムの活用・・・・・・・・・・・・・・・・	20
2 幼児期の学びについての理解を深めるために・・・・・・・・	20
3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について・・・・	21
実践協力園の取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・	24
VI 研究のまとめ	
1 幼小の円滑な接続のために・・・・・・・・・・・・・・・・	26
2 幼児期の学びと小学校教育の学びの相互理解を深めるために	26
VII 平成29年度「幼児教育研修会」まとめ ・・・・・・・・	27

資料

アプローチカリキュラム基本枠

実践協力園が作成したアプローチカリキュラム

観察カードによる学びの可視化（相生市立平芝幼稚園の取組）

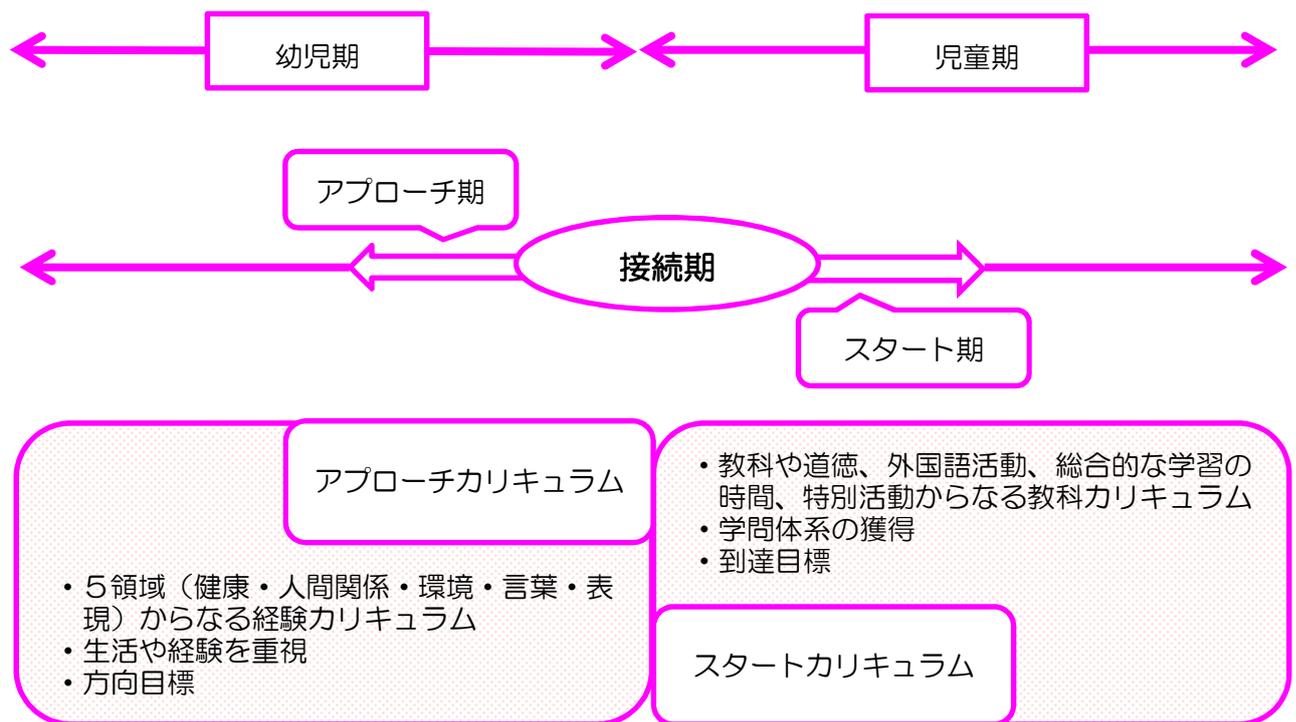
幼小連携事例シートによる学びの可視化（養父市立伊佐こども園の取組）

I 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けて ～アプローチカリキュラムの活用～

1 アプローチカリキュラムとは

幼児の発達や学びの連続性を保障するためには、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが重要です。そのためには、幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間として、接続期を設ける必要があります。接続期は、幼児期の教育から小学校教育への準備や慣れるための期間ではなく、子どもの発達や学びの連続性を踏まえて捉えなければなりません。接続期とは、就学前の「アプローチ期」と、就学後の「スタート期（入学期/入門期）」を合わせた期間のことです。そして、アプローチ期における教育課程のことを「アプローチカリキュラム」、スタート期における教育課程のことを「スタートカリキュラム」と呼びます。

アプローチカリキュラムは、アプローチ期に身に付けさせたい力や育てたい力を具体的に明らかにし、一人一人がその力の育つ方向に向かっているかを確認、保育実践や小学校教育との接続に役立てる教育課程です。



幼児期の教育では、今の学びがどのように育っていくのかを見通した教育課程の編成・実施が、小学校教育では、今の学習がどのように育ってきたのかを見通した教育課程の編成・実施が求められています。つまり、互いの教育の内容の深さや広がりをも十分に理解した上で、それぞれの教育内容を充実させることが重要であり、一方が他方に合わせるものではないということに留意しなければなりません。

2 接続期における課題

幼児期の教育と小学校教育は、教育課程の構成原理や指導方法等において、下記の表のように様々な違いが見られます。

	幼児期の教育	小学校教育
教育課程の 基準	幼稚園教育要領・保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	小学校学習指導要領
	健康・人間関係・環境・言葉・表現	国語・社会・算数・理科・生活・音楽・ 図画工作・家庭・体育・道徳・外国語活 動・総合的な学習の時間・特別活動
教育課程の 構成原理	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問の体系を重視)
	方向目標 (その後の教育の方向付けを重視)	到達目標 (具体的な目標への到達を重視)
教育の方法等	遊びを通じた総合的な指導	教科等の目標・内容に沿って選択された 教材による指導
学びの形態	<u>学びの芽生え(無自覚な学び)</u> 学ぶことを意識していないが、楽しいこ とや好きなことに集中することを通じ て、様々なことを学んでいくこと	<u>自覚的な学び</u> 学ぶことについての意識があり、与えら れた課題を自分の課題として受け止め、 計画的に学習を進めていくこと

この表で示したように、幼児期の教育においては、学びが育まれる過程が一様ではなかったり、学びによって育まれる姿が多様であったりするため、それらがどのように小学校教育における各教科へとつながっていくのかがイメージしにくく、学びの連続性の確保を難しくしています。そこで、こうした幼児期の学びと発達を滑らかに小学校教育に連続させていくため、幼児期においてはアプローチカリキュラム、児童期においてはスタートカリキュラムを編成することが求められるようになりました。

しかし、幼児教育の現場では、参考になる資料が少ない、どのように作成すればよいか分からないといったことが要因となって、接続期における教育課程の編成はなかなか進まないのが現状です。

3 課題解決に向けて

課題

どのようにアプローチカリキュラムを作成すればよいか、分からない。

幼児期の学びと小学校教育における学びのつながりが見えにくい。

解決方法

アプローチカリキュラム作成のための取組

- アプローチカリキュラムの基本枠を提示する。
- 平成28年度幼児教育支援事業において明らかになった「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」をもとにし、アプローチカリキュラムを作成する。

幼児期の学びと小学校教育の学びのつながりを分かりやすくするための取組

- アプローチ期に身に付けさせたい力や育みたい力を「3つの資質・能力」で分類、整理することで、小学校教員にも分かりやすくする。

小学校教育とのつながりを意識したアプローチカリキュラムの作成

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続

期待される効果

○幼稚園側から

- アプローチカリキュラムを作成することで、幼児期の学びが小学校教育にどのようにつながっていくのかを見通すことができる。
- 自園の課題や目指す幼児像が明確になる。

○小学校側から

- 幼児期にどのような学びや経験をしてきたのかを知ることができ、各教科とのつながりを見通すことができる。
- スタートカリキュラムを作成する際の参考にすることができる。

Ⅱ 研究内容

1 これまでの研究から

本研究は、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指した研究を、平成27年度から実施してきました。幼児期の学びを児童期へとつないでいくためには、幼児期の学びの実態を明らかにするとともに、小学校教育とのつながりを見通すことが大切です。以下に、平成27・28年度に、段階を踏んで取り組んできた研究テーマとその内容について、まとめています。

平成27年度 幼児理解を深めるためのプロセスについての研究

保育実践

エピソードの記録

保育カンファレンス

記録の省察

- 左図のプロセス内の各要素について、その方法や視点について研究を深めた。
- この一連のプロセスを踏むことで、幼児理解が深まるとともに、教師の保育観の幅が広がることが確認できた。

平成28年度 小学校教育へつながる学びの分析についての研究

日々の記録の分析
学びの可視化

学びを3つの
資質・能力に分類

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への関連付け

「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」の明確化

- 実践記録から可視化した学びを整理する手法、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」を「幼児期において育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の2つの視点からまとめる方法について検討した。
- 幼児期の学びを「3つの資質・能力」に分類することで、小学校教育とのつながりがイメージしやすくなり、アプローチ期に身に付けさせたい力が明確になることを確認できた。

2 今年度の研究について

今年度の研究も、これまでと同じ「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続」を目指した研究の一環として実施しました。すなわち、平成27・28年度の2年間の研究で明らかになった「『幼児期の終わりまでに育ててほしい姿』の具体像」等を踏まえ、4つの実践協力園がアプローチカリキュラムの作成に取り組みました。また、作成したアプローチカリキュラムを接続先の小学校とどのように共有し、幼小連携に活用するののかについても検討を重ねました。実践協力園の取組を紹介することで、今後、県内各市町において、地域や各園の実態に応じたアプローチカリキュラムの作成の実践につなげることを目的としています。

平成29年度 アプローチカリキュラムの作成手順等をモデルとして紹介

アプローチカリキュラムの作成

- 作成方法の検討（誰が、いつ、どのような方法で作成するか）
- アプローチ期の設定
- 接続期に身に付けさせたい力や育みたい力の検討、分類、整理
- 作成方法に関する課題の抽出

アプローチカリキュラムの検証、修正

- 検証、修正方法の検討（誰が、いつ、どのような方法で検証、修正するか）
- 検証する視点 幼児の生活や育ちの実態から
今後、身に付けさせたい力や育みたい力（課題）から
- 検証、修正方法に関する課題の抽出

幼小連携の工夫

- 幼小連携におけるアプローチカリキュラムの活用
- 幼児期の学びを小学校に分かりやすく伝える工夫
- 幼小連携（研修会や連絡会、交流会等）のための時間を確保する工夫

小学校へ接続

Ⅲ アプローチカリキュラムの作成について

アプローチカリキュラムは、小学校教育とのつながりを意識したアプローチ期（5歳児後半）における教育課程です。作成にあたっては、

- ① アプローチ期の設定
- ② アプローチ期に身に付けさせたい力や育みたい力の明確化

が大きな手順となります。

また、作成の際は、5歳児担任が中心となりますが、3歳児や4歳児の姿においても、日々の保育実践がアプローチカリキュラムにおける目指す幼児像に向かっていくを見直していく必要があります。幼児一人一人の育ちや学びを多角的に捉えていくという点においても、5歳児担任だけでなく、3歳児や4歳児の担任、養護教諭、加配教諭等も加わり、園全体で作成に取り組んでいくことが大切です。

1 アプローチ期の設定について

アプローチ期をどの期間とするかについては、各園の実態に応じて適切に設定していくことが必要です。各園で幼児の生活や遊びを見通し、幼児の育ちや学びを捉えながらアプローチ期を2～3期に分けて考えると、その期ごとに身に付けさせたい力や育みたい力を分類することができ、整理しやすくなります。

実践協力園の研究をもとに、アプローチ期の分け方について下記の表にまとめています。自園の実態を踏まえながら、アプローチ期の分け方を検討してみてください。

＜アプローチ期の分け方＞

例1：3期に分ける Ⅰ期（9～10月） Ⅱ期（11～12月） Ⅲ期（1～3月）	
利 点	自園の教育課程で使っている期の分け方に対応させてアプローチカリキュラムを作成する。教育課程と揃っているため、作成しやすい。
例2：2期に分ける Ⅰ期（10～12月） Ⅱ期（1～3月）	
利 点	運動会前後で幼児の生活や育ちに大きな変化が見られることを見通し、運動会後の10月からを接続期と捉えて作成する。発達の変化に焦点化するため、幼児の育ちや学びが整理しやすい。
例3：2期に分ける Ⅰ期（9～12月） Ⅱ期（1～3月）	
利 点	学期ごとにまとめる個人記録等をもとに、アプローチカリキュラムを作成する。幼児一人一人の育ちや学びについて振り返ることができるので、カリキュラムを検証しやすい。

Q&A

Q： アプローチ期を設定する際の視点は？

A： 幼児の発達として、「人間関係が深まり、学び合いが可能となる時期」であり、具体的には、「友達とともに探究する」「興味・関心が深まる」「自分に気付く」などの姿が見られるようになる時期が適切であるといわれています。5歳児の2学期以降、幼児が友達と協同して遊ぶようになる時期を目安にするとよいでしょう。

2 作成の手順について

アプローチカリキュラムを作成するにあたり、巻末資料の中に基本枠を示しています。基本枠をもとに、各園の実態に応じた方法で作成するとよいでしょう。この基本枠はあくまで参考です。自園の課題を明確にしたい、教師の援助や環境の構成のポイントを明確にしたい等、各園の必要に応じて、基本枠に手を加えてみてください。

作成の手順として、実践協力園の研究をもとに、様々な方法を下の表にまとめています。それぞれの方法には利点と課題とがありますが、園としてどのような幼児に育てたいのかという「目指す幼児像」を明確にしながらか、そのために身に付けていかなければならない力は何かを考えていくことが大切です。

<作成の手順>

例1：幼児の生活や遊びから、どのような力が身に付いているのかを検証しながら作成する。			
利点	身に付く力がイメージしやすい。	課題	身に付く力に偏りがなく、検証する必要がある。
例2：自園の幼児の実態から、課題は何か、どのような力を身に付けさせたいかを検証しながら作成する。			
利点	幼児の実態に即したアプローチカリキュラムの作成ができる。	課題	教師主導型のアプローチカリキュラムに陥りやすい。
例3：自園の教育課程をもとに作成する。			
利点	全職員で共通理解しながらアプローチカリキュラムの作成、検証をすることができる。	課題	身に付けさせたい力を、より具体的に示していく必要がある。
例4：『『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像』※ をもとに作成する。			
利点	身に付けさせたい力が明確にされており、アプローチカリキュラムが作成しやすい。	課題	幼児の実態に即したアプローチカリキュラムになっているか、確認する必要がある。

※ 平成28年度指導の手引き「幼児期と児童期の学びをつなぐ」に掲載

アプローチカリキュラムを作成することで、幼児の育ちを見通し、小学校教育とのつながりを意識した保育実践につなげていくことができます。しかし、アプローチカリキュラムの作成にあたっては、小学校の各教科の学習の単純な前倒しにならないように留意する必要があります。

3 幼児期において育みたい資質・能力について

平成29年3月に示された新しい幼稚園教育要領において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や幼児期において育みたい資質・能力の3つの柱が示されました。

幼児期において育みたい資質・能力は、幼児期の教育の特性から、小学校以降のような、いわゆる教科指導で育むのではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、美しさを感じたり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通して育むこととし、次のように整理されました。

○ 知識及び技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする。

○ 思考力、判断力、表現力等の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

○ 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

幼児期において育みたい資質・能力は、「高等学校を卒業する段階で身に付けておくべき力は何か」という観点や、「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」という観点を共有しながら、各学校段階において、系統的に育てていくこととされています。

このことから、アプローチカリキュラムを作成するにあたり、アプローチ期に身に付けさせたい力や育みたい力を、この3つの柱に基づいて分類し、整理することで、小学校教育とのつながりが見えやすくなると考えます。

Q&A

Q： 「アプローチ期に身に付けさせたい資質・能力」を3つの柱に分類する際、2つの資質・能力の両方にあてはまり、どちらに分類すべきか迷った場合は？

A： 幼児期において育みたい資質・能力の3つの柱は、幼児期の教育においては、5領域のねらい及び内容を踏まえ、遊びを通しての総合的な指導を行う中で一体的に育てていく、という幼児期の教育の特性から、はっきりと分類することが難しい場合があります。その際は

- どちらの資質・能力に重きをおくかを職員間で協議し、共通理解した上で分類する
- 次ページの幼児期において育みたい資質・能力（イメージ図）や平成28年度の指導の手引き「幼児期と児童期の学びをつなぐ」P.20～23を参考にする
- 両方の資質・能力に入れておく

などの方法がありますが、いずれにしても、職員間で共通理解しておくことが大切です。

幼児期において育みたい資質・能力（イメージ図）

小学校教育以上

<知識及び技能> <思考力、判断力、表現力等> <学びに向かう力、人間性等>

幼児期の教育へ環境を通して行う教育

知識及び技能の基礎

- 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得
- 規則性、法則性、関連性等の発見
- 様々な気づき、発見の喜び
- 身体感覚の育成
- 日常生活に必要な言葉の理解
- 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得等

思考力、判断力、表現力等の基礎

- 試行錯誤、工夫
- 予想、予測、比較、分類、確認
- 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- 言葉による表現、伝え合い
 - 振り返り、次への見通し
 - 自分なりの表現
 - 表現する喜び等

遊びを通しての総合的な指導

- 思いやり
- 安定した情緒
- 自信
- 相手の気持ちの受容
- 好奇心
- 探究心
- 葛藤、自分への向き合い、折り合い
- 話し合い、目的の共有、協力
- 色、形、音等の美しさや面白さに対する感覚
- 自然現象や社会現象への関心等

学びに向かう力、人間性等

※ 3つの円の中で例示される資質・能力は、5領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

※ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月）及び「幼稚園教育要領」（平成29年3月）に基づき、義務教育課にて作成

実践協力園の取組

幼児の実態や課題を明確にしたアプローチカリキュラムの作成

芦屋市立伊勢幼稚園

1 作成メンバー

園長、5歳児担任、4歳児担任、加配教諭、保育推進教諭、大学教授
芦屋市教育委員会主幹

2 アプローチ期の設定

I期 10月～12月 II期 1月～3月

・平成28年度12月に完成した芦屋市接続期カリキュラムを参考に作成した。

3 作成手順と工夫した点

作成手順

- ① 園内委員会において、平成28年度の指導の手引き「幼児期と児童期の学びをつなぐ」から「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点について事例を出し合って学び合う。
- ② 園内委員会において、本園の幼児の実態や課題について協議し、本音をぶつけ合ったり、困ったことを自分から発信したりする力が弱い、という課題を明らかにする。そして、その課題を克服するために、どのような活動を経験させていくのか、どのような活動で課題を乗り越えさせるのかを考え、講師の助言を得る。
- ③ 5歳児の担任が主な活動を考えながら、アプローチ期に身に付けさせたい力を枠に入れ込んでいく。
- ④ 昨年度の5歳児担任が加筆修正をする。
- ⑤ 園内委員会に大学教授、教育委員会主幹や指導主事を招いて協議する。



工夫した点

- ・大きな行事（運動会・伊勢幼まつり・生活発表会等）に向かう生活の中で、育てたい姿が明らかになるように実践から振り返って作成していった。
- ・経験年数の浅い教師に、カリキュラムに表していることが実践につながるように、具体的な昨年度の実践や幼児の姿などを伝えながら作成していった。

人と関わる力に着目したアプローチカリキュラムの作成

相生市立平芝幼稚園

1 作成メンバー

園長、5歳児担任、4歳児担任、3歳児担任

2 アプローチ期の設定

I期 9月～10月 II期 11月～12月 III期 1月～3月

- ・自園の教育課程や期ごとの長期指導計画をもとに、アプローチカリキュラムを作成するため、教育課程の期と揃えた。

3 作成手順と工夫した点

作成手順

- ① 自園の幼児の実態を把握し、課題や身に付けさせたい力（人と関わる力）を職員間で話し合う。
- ② 教育課程と期ごとの長期指導計画を見直す。
- ③ 長期指導計画をもとに、人と関わる力に着目しながら、幼児が経験する内容をカードに記入していく。
- ④ 記入したカードを幼児期において育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に分類し、期ごとに整理する。



「カードによる学びの分類」

工夫した点

- ・長期指導計画と比較しながら作成できるよう、期の分け方を揃えた。
- ・幼児期において育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の分類の仕方を、職員で話し合いを重ねて確認した。
- ・自園ならではの具体的な生活や遊びが分かるような文章表現にし、職員間で共通理解しやすくした。
- ・小学校学習指導要領における教科につながる姿を考えながら内容を分類し、言葉や数量・図形などについての学びや経験ができていくかについても配慮した。



学びをつなぐアプローチカリキュラムの作成

養父市立伊佐こども園

1 作成メンバー

園長、0～5歳児担任、加配保育教諭、養父市教育委員会指導主事

2 アプローチ期の設定

I期 10月～12月 II期 1月～3月

- ・人間関係が深まり、学び合いが可能となる時期を10月～3月と捉えた。
- ・10月～3月をアプローチ期と設定し、自園の教育課程をもとに2期に分けた。

3 作成手順と工夫した点

作成手順

- ① アプローチカリキュラムについて、職員間で共通理解する。
- ② アプローチカリキュラムに必要な表の構成を工夫する。
- ③ 就学前に身に付けさせたい力について、職員間で共通理解する。
- ④ 自園の教育課程10月～3月の学びの確認や指導、活動内容の見直し、大事なポイント等を明確にする。
- ⑤ 幼児期において育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、自園の期ごとの具体的な学びをそれらに分類、関連付ける。
- ⑥ 『「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体像』（H28 指導の手引き）を参考に、自園のアプローチ期の幼児の姿を書き込む。

* 幼児期において育みたい資質・能力に分類し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関連付けたカリキュラムと、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、小学校とのつながりを意識したスタート期に育つ子どもの姿（小学校と共有できる内容）を取り入れたカリキュラムの2案を作成した。

工夫した点

- ・接続期に身に付けたさせたい力を明確にするため、小学校の「スタート期に育つ子どもの姿」の欄と「小学校との連携の内容」の欄を加えた。（小学校にアプローチしやすくなった。）

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、学びの接続に必要なものであり、小学校でのスタートカリキュラム作成においても欠かせないものであるため、それを視点としたカリキュラムの作成も試みた。



幼児の遊びの過程や連続性を明らかにしたアプローチカリキュラムの作成

洲本市立洲本幼稚園

1 作成メンバー

園長、5歳児担任、4歳児担任、3歳児担任、接続する小学校1年生担任

2 アプローチ期の設定

作成時 I期 9月～10月 II期 11月～12月 III期 1月～3月
・自園の教育課程と同じ区分にすることで、ねらいや幼児の活動を設定しやすかった。
検証後 I期 9月 II期 10月～12月 III期 1月～3月
・幼児の遊びに合わせて区分することで、学びや援助が立てやすくなった。

3 作成手順と工夫した点

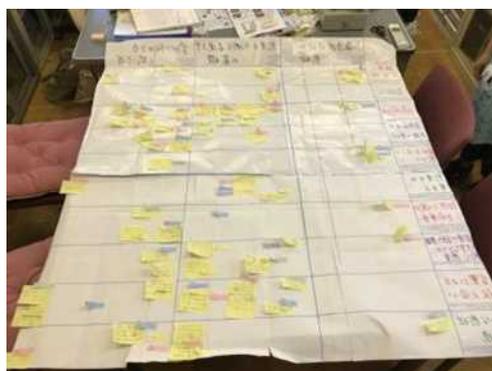
作成手順

- ① 5歳児の現在までに育っている姿を職員間で話し合い、共通理解を図る。
- ② 修了時までには育ってほしい姿についてねらいをもち、アプローチカリキュラムの期に当てはめて、予想される幼児の遊び（活動）を検討する。
- ③ 幼児の活動から見えてくる「学び」を検討し、幼児期において育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に分類する。



工夫した点

- ・幼児の遊びは、1つの遊びが終わって次の遊びが始まるのではなく、連続性を帯びており、幼児が遊び込むことで、遊びの過程には高まっていく部分があることを共通理解した。その遊びの連続性や高まりが一目で分かるように、山型の曲線で表した。
- ・幼児が様々な遊びから学んでいるということを表すために、「行事を通した遊び」「体験を通した遊び」「自然と関わる遊び」の3つに分類し、色別に表示した。



「学びの分類・整理」

Ⅳ 作成したアプローチカリキュラムの検証・修正について

作成したアプローチカリキュラムを保育実践や小学校との接続に活用するためには、作成後の検証、修正が重要となってきます。アプローチ期に入ると、事前に作成したアプローチカリキュラムが、自園の幼児の実態に即したものとなっているか、幼児の姿や育ちを繰り返し検証し、修正していくプロセスが大切です。

1 検証方法について

作成したアプローチカリキュラムの検証をするためには、保育実践を振り返ったり、幼児の育ちや学びを職員間で共通理解したりしなければなりません。作成したアプローチカリキュラムと、幼児の遊びや生活、学びや育ちの実態とを定期的に照らし合わせて、ずれが生じている部分については修正していくことが必要となってきます。

検証の方法については、実践協力園の研究をもとに様々な方法を下の表にまとめています。それぞれの方法には利点と課題とがありますが、定期的にアプローチカリキュラムを検証・修正することが重要であるという観点から、長期にわたって継続可能な方法で取り組むことが大切です。

<検証方法>

例1：学びの観察カードの活用			
利点	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児の学びや育ちについて、職員間で共通理解することができる。 • 学びを可視化することで、学びの分類や整理がしやすくなる。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> • 学びの観察カードの記入や整理に時間がかかる。
例2：小学校教員との連絡会、研修会においてアプローチカリキュラムを検証			
利点	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児期の学びについて、小学校教員と共通理解することができる。 • 小学校教育とのつながりを意識した検証・修正をすることができる。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> • 連絡会や研修会の時間を確保することが難しい。
例3：ビデオ撮影による保育実践の振り返り			
利点	<ul style="list-style-type: none"> • 同じ保育の場面を見て話し合うことで、様々な角度から幼児の学びについて検証することができる。 • 教師の援助等についての研修が深まり、保育の質の向上につながる。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> • ビデオを撮影するための人手の確保が難しい。

2 検証の視点について

作成したアプローチカリキュラムを検証する際の視点には、

- アプローチ期に身に付けさせたい力が育まれるような遊びや生活が展開されているか
- 幼児の学びや育ちの実態が、目指す幼児像に近づいているか
- 自園の幼児の課題が克服できるような遊びや生活が展開できているか
- アプローチ期の学びや育ちが、小学校教育にどのようなつながっていくのかを見通すことができているか
- アプローチ期に身に付けさせたい力に偏りはないか、新たな課題は何か

など、様々に挙げられます。幼稚園の生活は、幼児の主體的な活動から生まれる遊びを通して、様々な体験を積み重ねていくという特性から、教師の見通しをもった柔軟な関わりが重要となってきます。教師が、幼児の遊びを丁寧に捉え、アプローチ期に身に付けさせたい力を育むためには、どのような援助や環境の構成が必要なのかを見直し、幼児の実態に応じて柔軟に対応していくことが、アプローチカリキュラムの検証・修正につながっていきます。

3 修正について

検証の結果、作成したアプローチカリキュラムと幼児の実態にずれが生じていれば、アプローチカリキュラムを修正していかなければなりません。その際、色分けをする等、修正した箇所が分かるように残しておく、幼児の育ちの傾向や課題、保育実践における留意点が明確になるとともに、小学校教育とのつながりについての意識が高まっていきます。

Q&A

Q： 検証に関わるメンバーは？

A： 様々な角度から、幼児の育ちや学びを捉えるためにも、検証についても作成時と同様に、5歳児担任だけでなく、園全体で取り組んでいくことが大切です。

また、幼児期の教育と小学校教育の学びのつながりを意識したアプローチカリキュラムにしていくためにも、検証・修正をしていく段階で、接続する小学校教員からの意見を反映していくことが大切です。

保育参観やVTR、写真によるアプローチカリキュラムの検証

芦屋市立伊勢幼稚園

1 検証メンバー

園長、5歳児担任、4歳児担任、加配教諭、保育推進教諭
芦屋市教育委員会主幹、指導主事
接続する小学校校長、教頭、1年生担任



2 検証手順と工夫した点

検証手順

- ① 小学校にアプローチカリキュラムを提示して、小学校教員と検討する場をもつ。
- ② 小学校から、幼稚園の幼児の課題に対する取組についての意見を得て、再度、園内で見直しをする。
- ③ 幼児の実態や課題を明確にしたアプローチカリキュラムを小学校に提示して、幼稚園で小学校教員と話し合う。



工夫した点

- ・小学校教員に、幼児が小学校でプール遊びをしている様子や、幼稚園で生活している様子を参観してもらう機会をもった。
- ・VTRや写真を用いて小学校教員に幼稚園での保育内容を知らせ、幼児期の学びについて理解を深める機会をもった。接続する小学校校長にVTRを撮影してもらおうと、幼児の遊びの中での学びが、小学校の教科にどのようなつながるかがはっきりし、小学校に伝わりやすくなった。
- ・参観時には、小学校側から幼児に小学校生活について話してもらう機会を必ずつくった。「お山座り」の姿勢を直接指導してもらったことで、幼児の小学校生活への意識が高まった。

3 検証の際の留意点

- ・2学期は、小学校も幼稚園も運動会という大きな行事があり、互いが忙しいため、何度も検証を行うことが難しい。管理職だけで対応することが多にならないよう、1学期から計画的に取り組む。
- ・数回の参観では、小学校教員に幼稚園の幼児の実態を把握してもらうことが難しいため、可能な限り、VTRや写真を用いて説明するようにする。

学びの観察カードによるアプローチカリキュラムの検証

相生市立平芝幼稚園

1 検証メンバー

園長、5歳児担任、4歳児担任、3歳児担任
相生市立幼稚園長5名、相生市教育委員会指導主事
接続する小学校1年生担任 等



2 検証手順と工夫した点

検証手順

- ① 長期指導計画、月の指導計画を見直し、アプローチカリキュラムを作成する。
- ② 学びの観察カードを記入する。
- ③ 学びの観察カードから明らかになった幼児の学びを、幼児期において育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に分類する。
- ④ 幼児の実態とアプローチカリキュラムを見直す。
- ⑤ 小学校にアプローチカリキュラムを提示し、就学に向けて、共通理解しやすい形式や内容を検討する。

月 日 ()	記録者
歳児 幼児名	
学び	
1 知識及び技能の基礎	2 思考力・判断力・表現力等の基礎
3 学びに向かう力、人間性等	
A 健康な心と身体	B 自立心 C 協同性
D 道徳性・規範意識の芽生え	E 社会生活との関わり
F 思考力の芽生え	G 自然との関わり・生命尊重
H 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	
I 言葉による伝え合い	J 豊かな感性と表現
活動名:	
内容:	

工夫した点

- 毎日、その日のエピソードから事例を1つ挙げて学びの観察カードに記入していたが、検証に時間がかかった。そこで、「運動会」「ひらしばっこランド（運動遊びとステージごっこ）」等、行事や継続した遊びに視点を決めてカードを記入するように変更し、集約の時間短縮と検証作業の充実に努めた。
- 幼稚園の生活や学びが分かりやすいカリキュラムになるように、小学校からの質問や意見に答えたり、どのような遊びをしたかを伝えたりして、小学校教員と意見交換をしながら検証に努めた。

「学びの観察カード」（巻末資料参照）

3 検証の際の留意点

- 幼児の育ちが自園の目指す幼児像に向かっているかを園全体で検証していくため、5歳児だけでなく、3、4歳児についても学びの観察カードを記入し、学びの連続性を検証する。
- 幼稚園から小学校に滑らかに移行できるように、幼児の学びを分類する。また、環境の構成では、生活や学びを主体的に進める力と人と関わる力を育てる視点で検証する。

学びの可視化によるアプローチカリキュラムの検証

養父市立伊佐こども園

1 検証メンバー

園長、5歳児担任、4歳児担任、3歳児担任、加配保育教諭
 養父市教育委員会指導主事、接続する小学校校長、教頭、1年生担任、5年生担任

2 検証手順と工夫した点

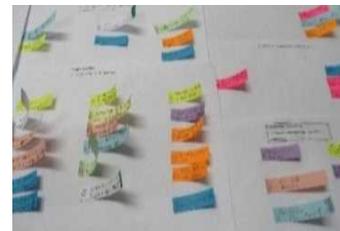
検証手順

- ① 日々の記録（遊び・行事等）を自園の様式に残す。
- ② 記録を分析し、学びを可視化する。
- ③ 可視化した学びを幼児期において育みたい資質・能力に分類する。
- ④ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関連付ける。
- ⑤ 実践事例、公開事例から可視化した学びを具体的に分類表に記入し、まとめる。
- ⑥ 活動経験に偏りが無いか、身に付けさせたい力が明確にできたかなどを分かりやすくするため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を10色に色分けした付箋をつくり、月案の幼児の活動に貼り付ける。

「クリスマス楽しいな!!」の活動から可視化した学びの分類 5歳児

活動からの学び	資質・能力	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	5領域	
・そりやサンタの家などイメージしたものが作れるよう材料や作り方を試したり工夫したりする。	造	F	・身近なものや用具の特性を生かしたり、使い方を工夫したりしながら、目的に応じて使いこなすようになる。	健康
・うまくいかなかった時、原因を考えその解決に向けて試したり工夫したりする。	造	F	・身近なものや用具の特性を生かしたり、使い方を工夫したりしながら、目的に応じて使いこなすようになる。	健康
・友だちと共通のイメージの中で、遊びの進め方について思ったことを相手に伝え、相手の考えも受け入れて遊び方を決めようとする。	学	C	・友だちと遊びの目的を共有し、目的が達成できるよう相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、友だちと一緒に生活や遊びを作り上げる楽しさや充実感を味わう。	健康
・クリスマスの絵本を見たり、話を聞いたりしてクリスマスに興味や関心をもち、サンタさんに手紙を書き文書に贈る。	知	J	・生活の中で美しいものや心を動かす出来事や出来事、様々な表現を楽しみ、感じたり考えたりするようになる。	人間関係
・サンタさんに手紙を書き文書に贈る。	知	H	・生活や遊びの中で文字や図画、数字のちぎりに気づき、生活や遊びに取り入れて使うことを楽しむ。	言語
・製作経験や友だちと一緒に楽しむ満足感や喜びを味わう。	学	F	・友だちと協力しながら、共に過ごす楽しさを味わう。	健康
・作る時の経験や失敗によって道具や用具の強みや性質がわかり使い分けられる。	学	C	・ものとの多様なかかわりの中で、その性質や仕組みに基づき考えたり使うようになる。	健康
・遊びを進める時、自分たちでサンタやサンタになる順番やルールを決め、役割を交代しながら遊びを進める。	学	C	・友だちと遊びの目的を共有し、目的が達成できるよう相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、友だちと一緒に生活や遊びを作り上げる楽しさや充実感を味わう。	健康

「可視化した学びの分類表」



工夫した点

- ・幼児期において育みたい資質・能力を、具体的に理解した上で分類することができるように、研修の度に確認し合ったことで、学びがどのようにつながっていくかが見通せた。
- ・10色に色分けした付箋を貼ることで、活動経験の偏りや育ってほしい姿のバランスが目で分かり、アプローチカリキュラムとの照らし合わせがしやすかった。
- ・1年生との交流活動で同じ様式を使って記録をとり、学びの観点から対比させた。

3 検証の際の留意点

- ・3歳児から4歳児、5歳児への接続も必要と考え、3、4歳児の学びも可視化する。
- ・分類することに意識が行き過ぎないこと、幼児が主体的に関わり、心動かされる経験の中に学びは生まれてくることを再認識して、教育・保育に取り組む。
- ・「幼児の学びは様々な側面から絡み合っており、相互に影響を与えながら身に付いていくものである」とされる中で、学びを分類することに戸惑いが生じることも考えられるが、小学校に学びをつなぐという点においては必要である。接続期のカリキュラムを、小学校教員と一緒に作成することが重要である。

小学校との交流によるアプローチカリキュラムの検証

洲本市立洲本幼稚園

1 検証メンバー

園長、5歳児担任、4歳児担任、3歳児担任
接続する小学校校長、教頭、1年生担任、2年生担任

2 検証手順と工夫した点

検証手順

- ① 作成したアプローチカリキュラムをもとに小学校教員と話し合う機会を設け、学習による学びと遊びからの学びの連続性を捉える。
- ② 小学校とのつながりを考え、小学校用にアプローチカリキュラムに教科名を記載する。
- ③ 学びの連続性を踏まえ、交流活動を実施する。
- ④ 実際の遊びの中でのエピソード記録を取る。
- ⑤ エピソード記録と作成したアプローチカリキュラムを照らし合わせ、不足部分や重複部分を職員間で分類し直す。
- ⑥ 実際の遊びの流れと幼児の学びにずれが見られる場合は、アプローチ期の区分を変更する。



工夫した点

- ・小学校教員に幼児の遊びが伝わりにくかったので、教科とのつながりを考えて教科名を入れた。
- ・教科名を入れたことで、自分たちが遊びとして日常的に取り入れている音楽面があまり表れていないことに気付き、再構成した。
- ・エピソード記録をもとに、遊びの振り返りをし、分類する際に、写真や動画を活用してカンファレンスを行い、幼児の学びについて職員間で共通理解した。

3 検証の際の留意点

- ・「豊かな環境の中で、ありのままに表現する子どもをめざして」という研究テーマを常に意識し、幼児が自分から表現している姿を捉えるようにする。
- ・3、4歳児との関わりが幼児の持ち前の優しさを引き出すきっかけになるよう、環境を整えるようにする。

V 幼小連携の工夫について

幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続させるためには、互いの教育の特性や違いを理解し合った上で、つながりを意識していかなければなりません。作成したアプローチカリキュラムを接続する小学校と共有することで、幼児期の学びを明らかにすることができます。

1 アプローチカリキュラムの活用

作成したアプローチカリキュラムは、接続する小学校と共有していかなければなりません。共有する方法として

- 接続する小学校教員に、アプローチカリキュラムの作成や検証に参加してもらい、小学校側の意見を取り入れていく。
- 接続する小学校との幼小連絡会において、アプローチカリキュラムを配布し、幼児期にどのような経験、育ちをしているか説明する資料の1つとする。

などが挙げられます。

また、作成したアプローチカリキュラムを、接続する小学校と共有するためには、小学校教員にも分かりやすい内容や構成にしていくことが大切です。幼児期の遊びや生活、学びが理解しにくいという小学校教員からの意見に、幼稚園側がどのように対応していくか、今後は、取組の工夫が求められます。

2 幼児期の学びについての理解を深めるために

小学校教育は、教科等の目標・内容に沿った指導であり、具体的な目標への到達を重視する教育であることに対し、幼児期の教育は、遊びを通した総合的な指導を中心とし、その後の教育の方向付けを重視する教育とされています。この教育の方法や原理の違いが、小学校教員にとって、幼児期の遊びや生活、学びについての理解を難しくしています。

幼児期の教育は、教師の意図的な環境の構成や関わりが重要です。幼児が遊びや生活の中で、どのようなことを経験し、学んでいるかを理解するためには、教師がどのような意図をもって環境の構成や援助を行っているか、ということと併せて理解していかなければなりません。

そのためにも、保育参観や事例検討などを通して、幼稚園側が実際の幼児の生活から学びを可視化し、分かりやすく説明していくことが大切です。また、次ページに示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、具体的な幼児の姿とともに小学校と共有していくことも効果的です。

3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領に示された5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものです。これは、新しい小学校学習指導要領にも示されており、今後、幼児期から児童期への発達の流れを理解する手がかりとなっていきます。

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりを意識するようになる。
思考力の芽え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自ら必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼児は園生活において、1つの遊びや行事などから、様々なことを経験し学んでいます。遠足で芋畑に行き、「芋掘り」をしている様子を例にして、一つ一つの学びを幼児のつぶやきから見てみましょう。つぶやきの中のアルファベットは、次ページの「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」との関連を示しています。

「芋掘り」を通して育つ幼児の姿

A: よいしょ、よいしょ!

B: なかなか出てこないな…
がんばるぞ!

F: お芋を傷つけない
ように、そっとね…

E: お芋畑のおじさん
にお礼を言わなくちゃ!

G: いろんな形のお芋が
あるよ! おもしろいね!

I: 見て! 見て! ここにも
大きなお芋があるよ!

H: 何個掘れたかな?
数えてみよう!

D: 私たちが乗ってきた電車と同じだ!
もっときれいに並べよう!

C: 僕のお芋とつなげて、
大きなお芋にしよう!

J: お芋の家族みたいだね!



芋掘りを通して育つ幼児の姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目の視点で見ると、次のようにまとめることができます。これらは、ほんの一例であり、幼児の主体的な活動を支える教師の適切な援助や環境の構成があれば、芋掘り1つから、いろいろな遊びが展開されていきます。

＜「芋掘りを通して育つ力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連＞

A	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 腕や足に力を入れ、土を掘ったり、芋のツルを引っ張ったりする。 収穫した芋を食べることを喜ぶ。
B	自立心	<ul style="list-style-type: none"> なかなか掘り出すことができなくても、諦めずに自分で芋を掘り出そうとする。
C	協同性	<ul style="list-style-type: none"> 友達と相談したり、協力したりしながら、大きな芋の絵をかこうとする。 焼き芋パーティーを企画し、友達と相談しながらパーティーに必要な準備を進める。
D	道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 収穫した芋（食べ物）を大切に扱おうとする。 利用する公共の交通機関や芋畑で、マナーを守ろうとする。
E	社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 利用する公共の交通機関や芋畑で働く人々と触れ合う中で、親しみをもったり、感謝の気持ちを伝えたりする。
F	思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 芋の近くを掘るときは、芋を傷つけないようにスコップの使い方に気を付ける。 芋のツルを使って電車ごっこをしたり、迷路をつくったりして遊びを工夫する。
G	自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> 掘り出した芋の大きさや形の違いに興味をもったり、収穫の喜びを味わったりする。
H	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 掘り出した芋の大きさや形を比べたり、数を数えたりして、数や形、大きさ等に興味をもつ。 焼き芋パーティーの看板やチケットをつくる中で、文字の必要性を感じたり、文字に興味をもったりする。
I	言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 友達同士で掘り出した芋を見せ合い、うれしい気持ちや驚き、発見を伝え合う。
J	豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな材料を使って芋をつくったり、芋の絵をかいたりする中で、自分の思いを伸び伸びと表現する。

このように、幼児期の学びを1つずつ読み取り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に視点を置いて可視化していくことで、小学校教員にも、幼児が1つの遊びや行事などから、様々なことを経験し、学んでいることが伝わりやすくなります。いろいろな場面において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付けながら、具体的な姿を小学校教員と共有していくことが大切です。

実践協力園の取組

芦屋市立伊勢幼稚園

幼小での合同研究会(体育部会)の開催

- 芦屋市は、学校園が連携した研究部会があり、本園は体育部会に所属している。月に1回程度、保育を公開したり、小学校の公開授業にもできるだけ参加したりして、運動遊びや体育を中心とした研究を積み重ねている。その中で、幼稚園の遊びと小学校の授業がどうつながっていくのかを、幼小の教員が共に研究する場として定着してきている。
- 11月の阪神地区研究発表会で保育公開をした際、各小学校の体育部会から多数の参加があった。市の部会として、組織の中で研究していく体制があることで、互いに保育や授業を見合う場、一緒に研修する場が設定できてきている。



「幼稚園の公開保育に小学校教員が参加」

アプローチカリキュラムの活用

- 保育公開時に保育指導案と一緒に本園が作成したアプローチカリキュラムを資料として配布している。幼児が幼稚園でどのような経験をしているのかを知り、小学校でこれをもとにスタートカリキュラムが作成されることを期待している。

相生市立平芝幼稚園

幼児期の学びの理解を深めるために

- 保幼小交流の事前打ち合わせ時に、子どものグループ編成をし、年齢に合わせた活動を計画する。交流で幼児が何を学んだのかを園職員で話し合い、よかったことや改善点を保幼小で意見交換をし、次回につなげる。
- 保育の指導案を添えて研究会に案内する。また、オープンスクール、運動会、音楽会などの参観を通して、生活の様子から学びを理解してもらう。
- 合同研修で幼児の学びを伝える機会をもつ。

保幼小交流



「岩屋谷公園で落ち葉拾い」

アプローチカリキュラムの活用

- 幼児の姿とアプローチカリキュラムを照らし合わせ、ねらいや学びにずれがあれば、検証し、学びの連続性を明確にする。
- アプローチカリキュラムを使って、小学校教員に遊びや生活の中の学びを説明する。小学校からの意見を受けて修正を重ね、小学校との連携に役立てる。

養父市立伊佐こども園

子ども理解を深めるために

- 子ども同士の交流会においては、小学校と一緒に年間計画を立てるようにし、幼児は小学校への憧れを、児童は幼児からの信頼や幼児への思いやりがもてるような内容を企画し、実施する。
- 授業参観、オープンスクール、保育参観に参加し、双方の学びを理解する機会をもつ。
- 「子どもを語る会」の時間をもち、園の子どもの様子や入学した子どもの育ちを共通理解する。



「おもちゃランドで遊ぼう！」

アプローチカリキュラムの活用



- 作成したアプローチカリキュラムを小学校に配布し、こども園の生活や経験する活動から何を学び、何を身に付けていくのかを説明する。
- 接続期に身に付けさせたい力とは何かを双方で理解し合う。
- アプローチカリキュラムから接続期カリキュラム作成の重要性について理解を得て、一緒に作成することへの協力を求める。

洲本市立洲本幼稚園

小学校教員とのつながり

- 自園から就学した児童の様子を聞く機会をもち、話し合いの中で幼児が遊びの中から何を学んでいるのかを具体的に伝える。
- 幼稚園と小学校の学びには連続性があることを再確認し、話し合いをきっかけに小学校教員が幼児の遊びを気に掛けて見るようにする。また、小学校のカリキュラムと幼児の学びを検討し、学びのつながりを考慮した交流をもつよう心がける。



「小学生と一緒に魚釣り」

小学校との連携についての課題

- 毎月の配布物やオープンスクール、授業や遊びの交流活動、合同の防災訓練を通して、さらに互いの教育活動の理解を深める機会をもつ。
- 自園からは、複数の小学校に就学するため幼小連絡会を通してアプローチカリキュラムを配布し、幼稚園での学びを理解してもらう資料の1つとして活用する。



VI 研究のまとめ

1 幼小の円滑な接続のために

1年間、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を目指して、アプローチカリキュラムの作成に関する研究に取り組んできました。

アプローチカリキュラムを作成、検証、修正をすることで、

- ① アプローチ期の幼児の育ちや学びの明確化
- ② 保育内容の見直しや、幼児理解の深まり

につながりました。アプローチカリキュラムは、作成して終わりではなく、接続する小学校との間で有効に活用されなければなりません。作成したアプローチカリキュラムをもとにした幼小合同の研修会や連絡会等を行うなどして、アプローチ期の学びを共有してください。

接続は、一方向からだけでは実現しません。双方が互いの違いや特性を理解し合い、歩み寄っていくことから始まります。アプローチカリキュラムは、まさに幼稚園側から小学校へアプローチするカリキュラムですが、今後は、小学校側が作成するスタートカリキュラムについても目を向けていかなければなりません。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムが、段差なく滑らかなスロープ状につながっているか、という視点が必要です。幼稚園と小学校が、互いのカリキュラムの作成に携わっていくことが円滑な接続につながっていくでしょう。

また、今後は、自園の幼児だけでなく、他の幼児教育施設とも連携しながら、同じ地域で育つ幼児の課題を明確にし、アプローチカリキュラムを作成することが必要となってきます。接続する小学校との縦のつながりだけでなく、保育所や認定こども園等、他の幼児教育施設との横のつながりを意識していくことも幼小の円滑な接続を考える上で重要となってきます。

2 幼児期の学びと小学校教育の学びの相互理解を深めるために

幼児期の学びと、小学校教育の学びの相互理解を深めるためには、幼児期の教育を小学校側に理解してもらおう努力をするとともに、幼稚園側も小学校教育についての理解を深める努力をしていかなければなりません。積極的に小学校の授業を参観したり、小学校学習指導要領を読み、理解したりするなどの取組が必要となってきます。

連携や交流の時間を確保することが難しい、接続する小学校が多数に分かれている、自園だけでなく、様々な幼児教育施設との連携も必要となってくる等、様々な課題はありますが、同じ地域の子どもを育てるという視点で、課題や目指す子ども像を明確にしながら、幼児期の学びと小学校教育の学びをつなげていくことが大切です。

Ⅶ 平成29年度「幼児教育研修会」まとめ

概要

- 趣 旨
- ・本県では、平成27年度から幼児教育支援事業を実施し、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、アプローチカリキュラム作成に係る実践研究に取り組んできた。
 - ・本年度は、アプローチカリキュラムの基本枠を示すとともに、昨年度整理した「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の具体像」をもとに、実践協力園が作成したアプローチカリキュラムや作成の手順等をモデルとして示すことで、今後、県内各市町において、地域や各園の実態に応じたアプローチカリキュラム作成の実践につなげたいと考えている。
 - ・そこで、実践協力園におけるアプローチカリキュラム作成についての実践発表や、小学校との接続についてパネルディスカッション等を行い、今後の幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の推進を図る。
- 日 時 平成30年3月1日（木）13：30～16：20
- 会 場 東灘区民センター5階大ホール（うはらホール）
- 参加者数 482名
- 日 程
- 13：30～13：40 開会挨拶
兵庫県教育委員会事務局義務教育課長 西田 健次郎
- 13：40～14：55 基調報告
「幼小の円滑な接続について」
兵庫県教育委員会事務局義務教育課
副課長兼初等・中学校教育班長 村田 かおり
- 14：00～14：40 実践発表
「アプローチカリキュラムの作成に関する取組について」
- 15：05～16：15 パネルディスカッション
「幼児期と児童期の『学び』の接続について」
コーディネーター
神戸大学大学院 教授 伊藤 篤
パネリスト
神戸松蔭女子学院大学 教授 寺見 陽子
神戸親和女子大学 教授 澤田 愛子
芦屋市立伊勢幼稚園 園長 瀬山 久美子
相生市立平芝幼稚園 主任教諭 森上 美由紀
養父市立伊佐こども園 園長 黒田 恵美
洲本市立洲本幼稚園 教諭 来田 千絵

基調報告 ～「幼小の円滑な接続について」～

- 研究の背景
- 幼児教育支援事業における3年間の研究内容について
- アプローチカリキュラムの作成、検証について
- アプローチカリキュラムを活用した幼小連携の工夫について



実践発表 ～「アプローチカリキュラムの作成に関する取組について」～

- 芦屋市立伊勢幼稚園の取組 芦屋市立伊勢幼稚園長 瀬山 久美子
 - ・アプローチカリキュラムの作成にあたり、自園の幼児の実態や課題を明確にし、アプローチ期には出来るだけトラブルや摩擦、葛藤を経験させ、試行錯誤を繰り返しながら目標を達成し、それを自信につなげていくような経験をさせたいと職員間で共通理解した。
 - ・小学校に幼稚園の遊びや生活を知ってもらうため、ビデオを撮影してそれを見てもらった。幼稚園側が撮影したビデオよりも、小学校長が撮影したビデオの方が1つの遊びをじっくりと追っており、そこから何が育っているかについて理解が深まったようだ。
- 相生市立平芝幼稚園の取組 相生市立平芝幼稚園 主任教諭 森上 美由紀
 - ・自園の幼児に身に付けさせたい力である「人と関わる力」の育成に関する項目を中心に、教育課程や長期指導計画を見直し、それをもとにアプローチカリキュラムを作成した。
 - ・作成したアプローチカリキュラムが幼児の実態や生活に即しているかを検証するため、「学びの観察カード」を活用した。幼児の遊びや生活からエピソードを記録し、学びの可視化をするとともにアプローチカリキュラムと照らし合わせながら検証を進めた。
- 養父市立伊佐こども園の取組 養父市立伊佐こども園長 黒田 恵美
 - ・アプローチカリキュラムは、5歳児担任だけでなく、0～4歳児の担任や加配保育教諭も一緒に作成した。全職員で、アプローチ期に身に付けさせたい力は何かを共通理解しながら作成した。
 - ・小学校からの意見で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で分類したアプローチカリキュラムも作成すると、小学校からは3つの資質・能力で分類したものより分かりやすいという意見を得た。また、「スタート期に育つ姿」の欄を設け、小学校と共通理解しながら記載した。
- 洲本市立洲本幼稚園の取組 洲本市立洲本幼稚園 教諭 来田 千絵
 - ・幼児の遊びは連続性を帯びていることや、幼児が遊び込むことで遊びの過程には高まっていく部分があることを一目で分かるように山型の曲線で表し、アプローチカリキュラムの幼児の活動欄に示した。
 - ・アプローチカリキュラムの検証については、小学校教員とともに行い、小学校教育とのつながりを見通すことができた。幼児の学びの様子を具体的に表記することで小学校教員にも分かりやすくなった。

パネルディスカッション ～「幼児期と児童期の『学び』の接続について」～

テーマ1 アプローチカリキュラムの作成、検証について～実践発表から～

澤田教授

○実践協力園の取組について

- ・自園の実態を踏まえたり、接続する小学校からの意見を取り入れたりするなど、実践協力園において工夫した取組がなされている。
- ・小学校と幼稚園が、互いの教育を見通しながら、一緒になってカリキュラムの作成や検証を行うそのプロセスが大切である。

○アプローチカリキュラムを作成する上で留意すべき点

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を評価の視点としていくことで、小学校教育への引き継ぎがしやすくなる。しかし、幼児期の学びは総合的な遊びの中からという、幼児期の教育の基本をしっかりと踏まえておかなければ、「できる、できない」の評価になり、誤解されやすいので注意が必要である。
- ・5歳児後半の姿だけに着目するのではなく、3、4歳児それぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねができていないか、3、4歳児の姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながっているかを、常に意識しておかなければならない。
- ・幼児の学びを、教師がどれだけ見取ることができるかが重要である。幼児期の学びを見取ることの大切さを見直し、幼児期の学びを小学校へ丁寧に伝えていくことを積み重ねてほしい。

寺見教授

○幼稚園教育要領の改訂について

- ・今回の改訂の中で言われていることは、幼児教育の見直しと幼児期において育みたい資質・能力の明確化である。幼児教育の見直しは、カリキュラム・マネジメントにつながる。カリキュラム・マネジメントの実施と資質・能力の明確化により、教育内容をどう充実させていくかが求められている。

○実践協力園の取組について

- ・4園の取組はそれぞれに特色があり、その園の実態や地域性、幼稚園と小学校の関係性の中で、幼小の円滑な接続を進めるにあたりどのような可能性があるかを探る実践発表であった。実践協力園の取組を聞き、ここから何を学んでいくかが重要である。
- ・小学校教育では知識や技術、「できる、できない」に目が向きがちであるが、幼児期は学びの芽生えを大切にしなければならない。芽生えた学びの芽をどのように紡いで、方向付けていくかが幼児期の教育である。

○今後の課題

- ・幼児の育ちや学びを、保育実践の中からどのように読み取るかが大切である。教師は、幼児が1

つの遊びや生活から様々なことを学んでいるということを常に意識し、学びを深く読み取る力を身に付けていく必要がある。

伊藤教授

○実践協力園の取組について

- ・平成29年度は、アプローチカリキュラムをどのように工夫して作成していくか、その方法論についてが研究の中心となっている。作成したアプローチカリキュラムが幼小の円滑な接続に、どこまで有効であったかということころまでは示しきれていないが、今後、それぞれの園での取組を考える上での参考にしてほしい。

○幼児の育ちや学びを捉えるにあたって

- ・今回の幼稚園教育要領の改訂で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目や、幼児期に育みたい資質・能力が示された。幼児期の教育は方向性の目標であることに変わりはないが、その方向性の中身が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目や、幼児期に育みたい資質・能力に向かっているかを意識しなければならない。
- ・5歳児修了時に、全員が同じ育ちをしている必要はないが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の方向に導くような道筋や手立てを考えたり、実践したりするという点で、アプローチカリキュラムは、非常に有用である。アプローチカリキュラムの作成や検証を通して、幼児の育ちや学びを的確に捉え、保育実践に役立てていくとよい。

テーマ2 アプローチカリキュラムを活用した幼小連携の工夫について

瀬山園長

○芦屋市の取組として

- ・芦屋市には、平成28年度に作成された「芦屋市接続期カリキュラム」があり、それをもとに自園のアプローチカリキュラムを作成した。
- ・芦屋市では、小学校と幼稚園が連携してともに学ぶ研究部会があり、月に1回程度、保育公開や授業参観を行い、研修を重ねている。
- ・市内の全ての小学校1年生の担任と公私立幼児教育施設の担任が一堂に集まって、情報交換や研修をする機会がある。市の中で、こうした研修や連携の体制があることが強みである。

森上主任教諭

○幼小連携の工夫について

- ・学期に1回程度の保幼小交流を行った。事前準備や打ち合わせを計画的に行うとともに、交流後には改善点を話し合い、次回につなげている。
- ・アプローチカリキュラムを作成、検証する中で、幼稚園生活を小学校側が理解しやすいようにするため、具体的な活動内容を挙げて文章表現する欄を設けた。
- ・作成したアプローチカリキュラムを接続する小学校に提示し、小学校からの疑問点に答えながら

編成し直し、小学校にも分かりやすいアプローチカリキュラムになるよう工夫した。

黒田園長

○幼小連携の工夫について

- ・幼小連携の時間を確保するために、年度当初に交流会や行事の参加について年間計画を立て、見直しをもって交流を進められるようにした。しかし、実際はそれぞれ忙しく、計画通りに進めることは難しかった。
- ・学期に1回、小学校の「子どもを語る会」に参加し、園の子どもの様子や、入学した子どもたちの育ちを教師間で共有する時間をもつようにした。
- ・交流会は小学校の全学年と行ったが、1年生と5年生との交流の回数を多くもつようにした。5年生とは2校時と3校時の間の20分間の休み時間に交流をもつことができた。

来田教諭

○幼小の学びのつながりについて

- ・小学校教員との話し合いの中で、幼稚園では、遊びの中で実体験をもとに数や数字に興味や関心をもつようになるが、小学校の授業になると数の概念が分かりにくくなり、幼児期の学びと小学校教育の学びがうまくつながっていないことが分かった。芋掘りの経験やおはじきを使った授業など、互いに具体的な事例を挙げて話し合うことで、それぞれの学びについての理解が深まった。
- ・作成したアプローチカリキュラムを、接続する小学校との連絡協議会で資料として配布し、幼児期の学びの過程を知ってもらおうよう心がけた。小学校からの意見を取り入れながら、今後も検証と修正を重ねていき、学びのつながりをより見通せるようにしていきたい。

寺見教授

○地域性や各園の実態を踏まえた幼小連携の在り方

- ・小学校と幼稚園、保育所が1つずつのような地域は比較的、連携しやすい。しかし、小学校1校に多数の幼児教育施設がある地域や、統廃合の進む地域は、継続した連携をしていくことが難しい。それぞれの地域の特性を踏まえた幼小連携の在り方を探っていかなければならない。
- ・小学校との関係性をいかに保っていくかが重要になってくる。幼稚園からアピールしてだけでなく、小学校で見られる姿は幼児期にどのように育ってきたのかを、小学校側が知りたいと思えるような関係性ができるとよい。

○幼児期の学びと小学校教育の学びについて

- ・幼児期の学びと小学校教育の学びについて、幼稚園側から小学校教育を見ると教科に引っ張られてしまい、小学校側から幼児期の教育を見るとその逆の現象が起こる。アプローチカリキュラムを考えるとき、自分はどの視点から、どちらを見ているのかを常に意識しておかなければならない。
- ・幼児期の教育と小学校教育は、学び方や目標等、全く違うものである。もともと違うものを結びつけるためには、工夫が必要である。
- ・幼児期は自分と周りとの関係性をどのようにつくっていくか、という自分中心の学び方で様々な

ことを身に付けていくが、小学校期になると、幼児期に獲得した関係性をもとに自分自身で目標をつくり、自ら計画的に学んでいく学び方をする。そこをどのようにつなげていくのか、という視点をもっておこななければならない。

- 5歳児の協同的な学びを小学校にどのように伝え、つなげていくかが大切である。そのためにも5歳児の具体的な遊びの様子や学びの過程を小学校と共有していかなければならない。

澤田教授

○幼小連携において留意すべき点について

- 幼稚園は学校教育の始まりである、幼稚園の教育は環境を通して行うものである、という基本的なことから、小学校に理解してもらうことが大切である。環境の構成の意味や教師の援助なども、具体的に説明していくことで、遊びの中から幼児が学んでいる様子が伝わりやすくなる。
- 1年生と5歳児の交流を行った際、1年生がペアの5歳児にプレゼントをつくっている様子を見て、ペアの5歳児のことを思い浮かべ、心をこめてつくっていることが分かった。5歳児は、それを心から喜んでおり、継続した交流を積み重ね、心と心のつながりができているからこそ見られる姿だと感じた。
- 交流の回数を重ねていくことで、教員同士も気心が知れ、互いの取組について率直に話せるようになり、理解も進む。職員の異動もあり、幼小連携を継続させていくことは難しいが、接続期の教育は、教育委員会とともに組織的に取り組んでいくことで、教育の指導の改善や内容の充実につながっていく。今後の教育委員会の取組にも期待したい。

伊藤教授

○アプローチカリキュラムの果たす役割

- アプローチカリキュラムは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を実質化したものであり、実現することを目的とする学びの指針である。幼児の「隠れた有能さ」をしっかりと見付け出し、それを小学校教員に、いかに伝えていくかが今後の課題となっていく。
- 小学校がスタートカリキュラムを作成する際に、幼児期にこれだけの資質・能力が育っているということを伝える材料の1つとして、アプローチカリキュラムを活用することができる。幼児期に育まれた資質・能力を、小学校以降の教育でより伸ばしていきたいと思われるようになっていくとよい。

寺見教授

○幼児期の学びと小学校教育の学びの接続における今後の課題

- 幼稚園教育要領の改訂で、幼稚園から高校までの各学校段階を通じて、系統的に学んでいくという観点から幼稚園教育において育みたい3つの資質・能力が示された。それを受けて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目が示されている、というこのルーツを十分に把握しておかなければならない。
- 今、日本の学校教育が全体的に見直されている。知識や技術を学ぶだけでなく、自ら周囲に関わり、自ら思ったことや考えたことを、いかに自己実現していくかが求められている。

- 科学が進歩し、学校教育の中だけでは知識や技術を教えきれなくなった今、自分自身の思いをどのようにコーディネートして表現し、自ら学んでいくのかということを、教育の中核にして考えていかなければならない。
- アプローチカリキュラムがアプローチカリキュラムに終わらないことが大切である。小学校教育の育ちと幼児期の育ちが全てそこに含まれ、なおかつ、それが日頃の教育課程とつながるところまでいかなければ、学びの接続という今日的な課題をクリアしていくことはできない。

伊藤教授

○アプローチカリキュラム作成における留意点

- アプローチカリキュラムの中に「スタート期に育つ姿」や、小学校の教科名を入れたりする実践協力園の取組があった。それは、あくまでも小学校教員にとって分かりやすいアプローチカリキュラムにするための工夫の1つである。しかし、そのことで幼稚園での保育実践が教科に引っぱられてしまうようであれば、園内で活用するアプローチカリキュラムではそれらを削除するなど、目的に応じて使い分けることが大切である。

○幼児期と小学校教育の学びについて

- 幼児の「隠れた有能さ」に着目してほしい。幼児期に、自分を中心軸にして自ら学びの欲求を充足していこうとする姿を大切に育ててほしい。
- 就学前までに育った幼児の主体性を小学校教育でも大切にもらうためにも、小学校教員に幼児の「隠れた有能さ」を伝えてほしい。そうすることで、小学校が幼稚園や認定こども園、保育所等と一緒に、スタートカリキュラムを作成しよう、作成しなければという意識の高まりにつながっていく。



資料

- アプローチカリキュラム基本枠

- 実践協力園が作成したアプローチカリキュラム
 - 芦屋市立伊勢幼稚園

 - 相生市立平芝幼稚園

 - 養父市立伊佐こども園

 - 洲本市立洲本幼稚園

- 観察カードによる学びの可視化（相生市立平芝幼稚園の取組）

- 幼小連携事例シートによる学びの可視化（養父市立伊佐こども園の取組）

		アプローチ期		
		5歳児 9月～10月	5歳児 11月～12月	5歳児 1月～3月
アプローチ期に身に付けさせたい資質・能力	知識及び技能の基礎			
	思考力・判断力・表現力等の基礎			
	学びに向かう力・人間性等			
幼児の活動				
環境の構成のポイント	教師の援助			

期		アプローチ期	
		5歳児 10月～12月	5歳児 1月～3月
伊勢幼 の実態		◎穏やかで優しい。友達のことを受け止めようとする姿があり、温かい雰囲気である。 生き物を大切に扱い、生き物の世界に思いを寄せる良さがある。	◎トラブルを避けている。失敗を恐れている姿も見られる。 友達と仲良く遊ばないといけないと思う気持ちが強い。仲良しの友達と一緒に行動するだけで安心している幼児もいる。
	課題	・本音をぶつけ合うことが少ない。 ・困ったことを自分から発信する力が弱い。 ⇒自分で考えて行動できる幼児に育てたい。 トラブルや摩擦、葛藤を経験させたい。 目標を達成して自信につなげたい。	成果 ・運動会やおまつりごっこ等を経験し、少しずつ自分の思いや考えが伝えられるようになってきた。 ・友達の頑張りや友達が困っていることに気が付き、伝えたり助けたりできるようになってきた。 ↓ 課題 ・大人に困り感を伝えたり、相談したりすることはできるが、自分達で解決しようとする力は弱い。
ア プ ロ ー チ 期 に 身 に 付 け たい 資 質 ・ 能 力	知識 及び 技能 の 基礎	(基本的生活習慣) (チャレンジ遊び) (食育) (リレー) (帽子とり) (生物) (色水) (葉っぱ・ドングリ)	(基本的生活習慣) (劇遊び) (かるた) (氷) (木・葉っぱ) (剣玉) (木工製作)
	思考力・ 判断力等 の 基礎	(リレー) (帽子取り) (リズムダンス) (生物) (縄引き)	(木工製作) (伊勢幼まつり) (合奏と歌)
	学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 等	(チャレンジ遊び) ・(B)体を動かす遊びに挑戦し、上手いかない苛立ちと諦めたくない気持ちで葛藤しながらも、諦めずに取り組む。 ・(B)体を動かす遊びに挑戦し、できるようになった達成感を味わうとともに、そのことが自信となり、他のことにも挑戦しようとする。 ・(I)友達の頑張りを認め、励ます。 ・(D)手伝ったり、応援したりなど、友達のことを思いやって関わる。 (綱引き) ・(C)ペア2人→家族4人→チーム15人でのリーダーを決め、力を合わせて勝つための作戦を考える。 ・(D)年長が年少に縄の持ち方や持つ場所などを教える。	(音楽会) ・(J)曲の感じや歌詞の内容を味わいながら、歌うことを楽しむ。 (ハッピータイム(異年齢ペア)の遊び) (音楽会) ・いろいろな楽器に親しみ、合奏する。 (ペア・グループ活動) ・巧技台遊びや縄跳び、コマ回しなどで遊ぶ。
幼 児 の 活 動	(運動会の遊び) <u>リレー</u> ・チームを自分達で決める。⇄友達の力を知る。 ・「そのチーム強い!」「Oちゃんがいったら勝てない」など、本音を出し合い話し合う。 <u>リズムダンス</u> ・曲に合わせて自分達でダンスを創作する。 <u>チャレンジ遊び</u> ・竹馬・フープ・ホッピング・縄跳び・一輪車など自分で目標をもって取り組む。 <u>帽子取り</u> ・友達の帽子を取る。向かっていく。 ・作戦を考える。	<u>伊勢幼まつり</u> ・「いらっしやいませ」「おいしいですよ」など、自分から声を掛け、楽しむ。 <u>木工製作</u> ・仲よし会にむけて、木工製作をする。 <u>音楽会</u> ・いろいろな楽器に親しみ、合奏する。 <u>ペア・グループ活動</u> ・巧技台遊びや縄跳び、コマ回しなどで遊ぶ。	<u>劇遊び</u> ・登場人物の気持ちを考えて、表現することを楽しむ。 ・クラスの友達と共通の目的をもって心と力を合わせる。 <u>かるた・すごろく</u> ・ひらがなにふれながら、かるたやすごろくを楽しむ。 <u>剣玉</u> ・剣玉検定をし、自分の目標の級に向かって挑む。
環 境 の 構 成 の 援 助 イ ン ト	・預かり保育の午睡をなくす。 ・生活に見通しがもてるように、1日のスケジュールを表示する。 ・お山座りの姿勢が、椅子に座った時の姿勢につながることを知らせ、意識させる。 ・椅子に座って先生や友達の話を聞く時間を少しずつ長くしていく。 ・話を聞く姿勢が意識できるようにする。 ・自分が困っていることを友達や教師に伝えられるようにしていく。 ・いろいろな生活の中で自分で考えて行動する場をつくっていく。	・幼児に任せ、見守る援助と、幼児が意識したり考えたりする間の取り方やきっかけづくり等の援助の在り方を考える。 ・選べる環境、試せる環境と時間をつくる。 ・幼児がやろうとする気持ちを認め、意欲的に生活が送れるようにする。 ・教師の認めや励ましなどの言葉がけも伝え合う力の学びの1つとなることを意識する。	・環境に慣れ親しむために、小学校に行く機会をつくる。 ・小学校でやってみたいことや質問等を話し合い、小学校と連携する機会をつくる。 ・小学校を題材にした絵本を展示し、読む。

		I 期 5歳児 10月～12月	II 期 5歳児 1月～3月	スタート期に育つ子どもの姿(4,5,6月) 幼小で共通理解
アプローチ期に身に付けたい資質・能力	知識及び技能の基礎	<p>【園生活の中で自分の役割を感じて、自分たちで生活を進めていこうとする力】</p> <p>(A)・手洗い、うがい、着替えなど健康な体のために必要なことを自分から進んで行うようになる。</p> <p>(A)・鬼ごっこ、縄とび、しっぽ取り、鉄棒などの遊びに応じた体を動かすコツをつかみ、意識してその部位を動かして遊ぶようになる。</p> <p>(A)・収穫したサツマイモ・米・柿・栗等でクッキングやキッズキッチンを通して、食べ物への興味や関心をもち、友達と一緒に食べることを楽しんだり、収穫物への感謝の気持ちをもったりするようになる。</p> <p>(A)・秋祭りに参加し、地区の人とふれ合い、自分達が住む地域の良さに気付き、親しみをもつようになる。</p> <p>(G)・ドングリやまつぼっくり、山の本々の色の変化や落ち葉な等にふれ、自然の美しさに気付き、また、季節の移り変わりに興味や関心をもつようになる。</p> <p>(H)・文字・数字・標識に興味を持ち、生活や遊びに取り入れて使うことを楽しんだり時計を意識しながら行動したりしようとするようになる。</p>	<p>(A)・養父市5つの生活習慣（早寝・早起き、規則正しい食事、あいさつ、片付け、読書の習慣）を守って規則正しい生活習慣を身につけようとするようになる。</p> <p>(B)・春を呼ぶ集いの内容や進行等、仲間と話し合う中で役割を分担することや自分の役割を自覚し責任を果たそうと努力するようになる。</p> <p>(D)・友達や異年齢児との関わりを深め、思いやりの気持ちをもって行動するようになる。</p> <p>(E)・就学への期待を膨らませる中で、成長することの大変さを知り、周りの人への感謝の気持ちを持つ感謝の気持ちを表す方法を考えるようになる。</p> <p>(G)・雪や氷、霜柱等で遊び、自然事象の不思議さを感じながら興味や関心をもって関わるようになる。</p> <p>(G)・気温によって、雪の質感、量感が変わることや雪や氷が溶けることによって変化していくことなどに気付くようになる。</p> <p>(H)・かるたやトランプの枚数を数えたり、コマ回しの技を友達と競ったりすることで、数字や表の便利さを知るようになる。</p>	<p>【新しい環境に適応して生活する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の食べる量が分かり、時間内に残さず、マナーを守って楽しく食べようとする。 活動が始まるまで(休み時間)にトイレに行こうとする。 素早く衣服の着脱、始末をしようとする。 手洗いやうがいの効果を知り、進んで実践しようとする。 集団生活をする上で注意しなければならない危険なことや交通ルールを理解し守って生活しようとする。 持ち物の整理整頓を習慣付け、見通しをもって行動しようとする。 掃除の進め方を理解し、一生懸命掃除をしようとする。
	思考力・判断力・表現力等の基礎	<p>【身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、自ら考え、決定し、伝え合って遊ぼうとする力】</p> <p>(F)・友達と一緒に遊ぶ中で、共通の目的をもって遊びのルールを決めようとするようになる。</p> <p>(G)・秋の自然物を使い、友達と工夫したりしながら遊びに取り入れるようになる。</p> <p>(H)・木の実や落ち葉を拾い、数や大きさ、形などの違いに気付き、比べようになる。</p> <p>(I)・絵本や文学遊びをする中で言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉が豊かになる。</p> <p>(J)・ごっこ遊びや共同製作等、友達とイメージを共有する中で、表現する喜びを味わうようになる。</p> <p>(I)・友達と言葉のやり取りを十分に行い、互いの思いを伝え合うようになる。</p> <p>(H)・もちつきの中で、丸めた数を確かめたり、丸める大きさを工夫したりしながら、多い・少ない・大きい・小さい等の意味を実感するようになる。</p>	<p>(F)・自分の作りたい雪だるまやかまくらなどをイメージしながら雪の固さや量などを予測したり、方法を考えたりして取り組むようになる。</p> <p>(F/G)・氷、霜柱等の発見や経験を通して、氷作りの条件を考えたり形を考えたりして試して遊ぶ楽しさを知るようになる。</p> <p>(H)・ごっこ遊びに必要なものを準備する中で数える、比べる、形を工夫する等の遊びを楽しむようになる。</p> <p>(I)・朝の会や終わりの会で、自分で考えたことや、頑張ったこと等をみんなの前で伝えられるようになる。</p> <p>(J)・表現遊びでは、友達とイメージを共有しながら感じたり考えたりしたことを体で表現するようになる。</p>	<p>【教科学習の基礎となる興味・関心や意欲・能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の名前が読めて書け、10までの数の意味や順番が分かるようになる。 自然にふれて遊び、興味・関心を抱くようになる。 歌ったり踊ったり、自分の感じたことを伸び伸びと表現しようとする。 自分がクラスの一員であることを感じ、集団行動の基本的な動きを知り、安全面にも気を配り、楽しく活動しようとする。 友達の話を聞いたり自分の思いを伝えたりして、楽しく協同的に活動しようとする。
	学びに向かう力・人間性等	<p>【友達や保育者との人間関係が深まり、人と関わる心地よさを感じながら、よりよく遊んだり生活したりしようとする力】</p> <p>(B)・製作や運動遊び等、できなくても根気よくやり、できたときの達成感を味わうようになる。</p> <p>(B)・おまつりごっこやお店屋さんごっこ等の再現遊びを通して、先生や友達に認められたり、友達と支え合ったりする経験をし、自分の良さに気付き、自信をもって行動するようになる。</p> <p>(C)・ごっこ遊びなどの再現遊びの中で、想像したり役割分担したりしながら、友達と一緒に遊びをつくり上げる楽しさを味わうようになる。</p> <p>(C)・文化祭に向けて、友達と協力して作品を作り上げるようになる。</p> <p>(E)・祖父母・異年齢児・小学生との関わりの中で、相手のことを思いやって接したり、手助けをする姿を感謝されたりして、人の役に立つ喜びを感じるようになる。</p> <p>(D)・自分の気持ちを相手に分かるように話したり、相手の考えを受け入れたりし、折り合いをつけて遊ぶようになる。</p> <p>(G)・コウノトリの郷公園へ遠足に行ったり、6年生の生き物調べを見たり聞いたりする中で、生命の尊さに気付き伊佐の自然を愛し大切に思う気持ちをもつようになる。</p>	<p>(C)・春を呼ぶ集いに向けて、進め方について友達と相談したり役割を分担したり、必要なものを一緒に作ったりしながら、友達と一緒に活動を進める楽しさを味わう。</p> <p>(I)・表現遊びを通して登場人物の心情を考えたり、友達と考えながら深めたりするようになる。</p> <p>(J)・友達と絵本のイメージを共有しながら伝えたいことを表現する方法を考え、達成感や充実感を味わうようになる。</p> <p>(I)・卒園式の呼びかけや歌を通して、感謝の気持ちを表現したり、心を通わせたりするようになる。</p> <p>(E)・お別れ会や卒園式を行う中で、自分が大切にされていたことに気付いたり、就学への期待感をもったりするようになる。</p> <p>(I)・困ったときには、自分から先生や友達に話したり、お願いしたいことを依頼したりして、解決するようになる。</p>	<p>【友達や先生など身近な人と関わりながら思いを伝え合い、人間関係をつくっていく力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から挨拶や言葉を掛け、人と関わろうとするようになる。 自分の伝えたいことを相手に分かるように話そうとする。 先生の話や全体の指示を自分のこととして聞き、理解して行動に移そうとする。 友達の名前をしっかり覚え、名前で呼ぶようになる。 トラブルの対処方法が分かり、自分達で解決しようとする。 地域の人、先生、上級生とふれ合おうとする。
幼児の活動	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の収穫・種まき 等 八鹿文化祭(共同製作) 秋の自然にふれる(木の実・落ち葉 等) ごっこ遊び(おまつり・ハロウィン・クリスマス・もちつき・お店屋さん・郵便屋さん・学校ごっこ 等) 運動遊び・チャレンジタイム(縄跳び、竹馬、フラフープ、鉄棒、ドッチボール、鬼ごっこ、跳び箱、雲梯 等) 生活習慣(手洗い・うがい・衣替え・感染症の予防 等) 	<ul style="list-style-type: none"> 遠足(コウノトリの郷公園) クッキング・キッズキッチン(収穫したものをを使って) 春を呼ぶ集い(表現・歌・楽器遊び・鍵盤ハーモニカ・文学遊び) 冬の自然にふれる(雪・氷・霜柱・つらら 等) お正月遊び(たこ・かるた・コマ・すごろく・トランプ・ふくわらい等) 卒園に向かって(製作・卒園式練習 等) 	<p>*参照</p> <ul style="list-style-type: none"> (A) 健康な心と体 (B) 自立心 (C) 協同性 (D) 道徳性・規範意識の芽生え (E) 社会生活との関わり (F) 思考力の芽生え (G) 自然との関わり・生命尊重 (H) 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 (I) 言葉による伝え合い (J) 豊かな感性と表現 	
幼小連携の具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> 秋の収穫祭(1年生) 1対1の読み聞かせ(4年生) 学習発表会参加 生き物調べ(6年生) 手作りおもちゃ交流(2年生) 体育交流(3年生) (通年) 養護の先生の話を書く 保健衛生について 5・5交流(5年生) 給食・遊び・そうじ 等 	<ul style="list-style-type: none"> 合同避難訓練 全校集会参加 体験入学 		
○環境の援助	<p>○園外に散歩に行く機会を設け、秋の自然に十分にふれたり、季節の変化を感じたりできるような直接体験の場を持ち、自然物への関心が高まるようにする。又、気付いたことを調べられる図鑑や絵本を用意しておく。</p> <p>○十分に遊べるように時間を確保したりルールを確認する場を設けたりする。又、必要に応じて仲立ちをし、楽しく遊べるようにする。</p> <p>○生活や遊びの中で数、文字、数量、時計に関わって遊べるような場を工夫する。</p> <p>☆友達の考えや自分の思いを互いに認め合えるような好ましい関係が築けるように援助し、試行錯誤したり葛藤したりする姿を温かく受け止め支えていく。</p> <p>☆相手の思いに気付けるように、幼児同士が話し合う場を大切にす。又、幼児なりの言葉で表現する姿を見守り、人の話を聞くことの大切さを伝える。</p> <p>☆地域の行事に参加したり、様々な人々との交流を通して、感じたり発見したりしたことを遊びに生かせるようにする。</p> <p>☆遊びのアイデアやイメージを出し合いながら工夫し、互いに励まし合ったり認め合ったりする姿を受け止め、一緒に協力して活動する楽しさや満足感につながるようにしていく。</p> <p>☆一人一人に目標をもたせ、最後までやり通すように気持ちを高めていく。</p> <p>☆小学校行事や交流会・就学前健康診断を通して、就学に向けて関心が高まるようにする。</p>	<p>○共通のイメージで遊べるように絵本や掲示物を用意したり、話し合いの機会をもったりする。</p> <p>○お正月遊びや伝承遊びが十分できる場所を確保し、文字や数量に興味や関心が高まるような絵本等、必要な物を幼児達のとりにやすいところに準備しておく。</p> <p>○卒園までの予定などが分かるようなカレンダーを作り、スケジュールを確認したりしながら見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>○就学への期待がもてるよう、小学校の生活を見学したり、体験したりする機会をもつ。</p> <p>☆春を呼ぶ集いでは、様々な表現と一緒に考えていきイメージを膨らませながら楽しんで主体的に取り組めるようにし、自信をもって表現している姿を認め、達成感が味わえるようにする。</p> <p>☆さまざまな楽器の音色を楽しんだり、友達と音やリズムを合わせる楽しさを味わったり、音階に興味や関心をもてるようにする。</p> <p>☆自分の力を十分に発揮し、互いの良さに気付き協力し合いながら遊びを進め、充実感を味わえるようにする。</p> <p>☆これまでに経験してきたことを振り返り、関わってきた人への感謝の気持ちをもったり、成長した姿を認め自己肯定感を育んだりするなど、就学に向けて自信がもてるように支えていく。</p>	<p>幼小連携の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの行事に参加し合う。 小学生の姿を見る機会をもち、小学校入学への憧れを感じるようにする。 園の生活や遊びの取り組みへの理解を得、学びをつなげられるようにする。 幼児や保護者が感じる、就学に向けての不安を保護者と教師が教諭する。 小学校の教師と小学校の生活の流れについて情報共有を行い、幼児が学校生活のイメージがもてるようにする。 就学する小学校へ引き継ぎを行う。 	

資質・能力		<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能の基礎（豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、わかったり、できるようになったりする） 思考力・判断力・表現力等の基礎（気付いたことや、できるようになったことなども使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。） 学びに向かう力・人間性等（心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。） 	
		I 期 10月～12月	II 期 1月～3月
幼児期の終わりまでに身に付けたい10項目	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い、うがい、着替えなど健康な体のために必要なことを自分から進んで行うようになる。 鬼ごっこ、縄とび、しっぽ取り、鉄棒などの遊びに応じた体を動かすコツをつかみ、意識してその部位を動かして遊ぶようになる。 収穫したサツマイモ・米・柿・栗等でクッキングやキッズキッチンを通して、食べ物への興味や関心もち、友達と一緒に食べることを楽しんだり、収穫物への感謝の気持ちをもったりするようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「養父市5つの生活習慣（早寝・早起き、規則正しい食事、あいさつ、片付け、読書、の習慣）」を守って規則正しい生活習慣を身に付けようとするようになる。
	自立心	<ul style="list-style-type: none"> 製作や運動遊び等、できなくても根気よくやり、できたときの達成感を味わうようになる。 おまつりごっこやお店屋さんごっこ等の再現遊びを通して、先生や友達に認められたり、友達と支え合ったりする経験をし、自分の良さに気づき、自信をもって行動するようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 春を呼び集いの内容や進行等、仲間と話し合う中で役割を分担することや自分の役割を自覚し責任を果たそうと努力するようになる。
	協同性	<ul style="list-style-type: none"> ごっこ遊びなどの再現遊びの中で、想像したり役割分担したりしながら、友達と一緒に遊びをつくり上げる楽しさを味わうようになる。 文化祭に向けて、友達と協力して作品を作り上げるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会に向けて、進め方について友達と相談したり役割を分担したり、必要なものを一緒に作ったりしながら、友達と一緒に活動を進める楽しさを味わう。
	道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを相手に分かるように話したり、相手の考えを受け入れたりし、折り合いをつけて遊ぶようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や異年齢児との関わりを深め、思いやりの気持ちをもって行動するようになる。
	社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 秋祭りに参加し、地区の人とふれ合い、自分達が住む地域の良さに気づき、親しみをもつようになる。 祖父母・異年齢児・小学生との関わりの中で、相手のことを思いやって接したり、手助けをする姿を感謝されたりして、人の役に立つ喜びを感じるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学への期待を膨らませる中で、成長することの大変さを知り、周りの人への感謝の気持ちをもつ感謝の気持ちを表す方法を考えるようになる。 お別れ会や卒園式を行う中で、自分が大切にされていたことに気付いたり、就学への期待感をもったりするようになる。
	思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊ぶ中で、共通の目的をもって遊びのルールを決めようとするようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作りたい雪だるまやかまくらなどをイメージしながら、雪の固さや量などを予測したり方法を考えたりして取り組むようになる。 氷、霜柱等の発見や経験を通して、氷作りの条件を考えたり形を考えたりして試して遊ぶ楽しさを知るようになる。
	自然との関わり 生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> ドングリやまつぼっくり、山の木々の色の変化や落ち葉等にふれ、自然の美しさに気づき、また、季節の移り変わりに興味や関心をもつようになる。 秋の自然物を使い、友達と工夫したりしながら遊びに取り入れるようになる。 コウノトリの郷公園へ遠足に行ったり、6年生の生き物調べを見たり聞いたりする中で、生命の尊さに気づき、伊佐の自然を愛し大切に思う気持ちをもつようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 雪や氷、霜柱等で遊び、自然事象の不思議さを感じながら興味や関心をもって関わる。 気温によって、雪の質感、量感が変わることや雪や氷が溶けることによって変化していくことなどに気づくようになる。
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 文字・数字・標識に興味を持ち、生活や遊びに取り入れて使うことを楽しんだり、時計を意識しながら行動したりしようとするようになる。 木の実や落ち葉を拾い、数や大きさ、形などの違いに気づき、比べるようになる。 もちつきの中で丸めた数を確かめたり、丸める大きさを工夫したりしながら、多い・少ない・大きい・小さい等の意味を実感するようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> かるたやトランプの枚数を数えたり、コマ回しの技を友達と競ったりすることで、数字や表の便利さを知るようになる。 ごっこ遊びに必要なものを準備する中で数える、比べる、形を工夫する等の遊びを楽しむようになる。
	言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や文学遊びをする中で言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉が豊かになる。 友達と言葉のやり取りを十分に行い、互いの思いを伝え合うようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会や終わりの会で、自分で考えたことや、頑張ったこと等をみんなの前で伝えられるようになる。 表現遊びを通して登場人物の心情を考えたり、友達と考えながら深めたりする。 卒園式の呼びかけや歌を通して、感謝の気持ちを表現したり先生や友達と心を通わせたりするようになる。 困ったときには自分から先生や友達に話したり、お願いしたいことを依頼したりして、解決するようになる。
	豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ごっこ遊びや共同制作等、友達とイメージを共有する中で、表現する喜びを味わうようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現遊びでは、友達とイメージを共有しながら感じたり考えたりしたことを体で表現するようになる。 友達と絵本のイメージを共有しながら伝えたいことを表現する方法を考え、達成感や充実感を味わうようになる。
幼児の活動	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の収穫・種まき 等 遠足（コウノトリの郷公園） クッキング・キッズキッチン（収穫したものを使って） 八鹿文化祭（共同製作） 学習発表会（伊佐小学校） 春を呼び集い（表現・歌・楽器遊び・鍵盤ハーモニカ・文学遊び） 秋の自然にふれる（木の実・落ち葉 等） 冬の自然にふれる（雪・氷・霜柱・つらら 等） 早春の自然にふれる（ふきのとう・つくし 等） ごっこ遊び（おまつり・ハロウィン・クリスマス・もちつき・お店屋さん・郵便屋さん・学校ごっこ 等） 運動遊び・チャレンジタイム（縄跳び、竹馬、フラフープ、鉄棒、ドッチボール、鬼ごっこ、跳び箱、雲梯 等） お正月遊び（たこ・かるた・コマ・すごろく・トランプ・ふくわらい等） 卒園に向かって（製作・卒園式練習 等） 		
幼小連携の具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣（手洗い・うがい・衣替え・感染症の予防 等） 秋の収穫祭（1年生） 1対1の読み聞かせ（4年生） 学習発表会参加 合同避難訓練 全校集会参加 体験入学 生き物調べ（6年生） 手作りおもちゃ交流（2年生） 体育交流（3年生） （通年） 養護の先生の話聞く・・・保健衛生について 5・5交流（5年生）・・・給食・遊び・掃除 等 		
〇環境の構成 ☆教師の援助 POINT	<ul style="list-style-type: none"> 〇園外に散歩に行く機会を設け、秋の自然に十分にふれたり、季節の変化を感じたりできるような直接体験の場を持ち、自然物への関心が高まるようにする。又、気付いたことを調べられる図鑑や絵本を用意しておく。十分に遊べるように時間を確保したりルールを確認する場を設けたりする。又、必要に応じて仲立ちをし、楽しく遊べるようにする。 〇生活や遊びの中で数、文字、数量、時計に関わって遊べるような場を工夫する。 ☆友達の考えや自分の思いを互いに認め合えるような好ましい関係が築けるように援助し、試行錯誤したり葛藤したりする姿を温かく受け止め支えていく。 ☆相手の思いに気付くように、幼児同士が話し合う場を大切に。又、幼児同士の言葉で表現する姿を見守り、人の話を聞くことの大切さを伝える。 ☆地域の行事に参加したり、様々な人々との交流を通して、感じたり発見したりしたことを遊びに生かせるようにする。 ☆遊びのアイデアやイメージを出し合いながら工夫し、互いに励まし合ったり認め合ったりする姿を受け止め、一緒に協力して活動する楽しさや満足感につなげるようにしていく。 ☆一人一人に目標をもたせ、最後までやり通すように気持ちを高めていく。 ☆小学校行事や交流会・就学前健康診断を通して、就学に向けて関心が高まるようにする。 〇共通のイメージで遊べるように絵本や掲示物を用意したり、話し合いの機会をもったりする。 〇お正月遊びや伝承遊びが十分できる場所を確保し、文字や数量に興味や関心が高まるような絵本等、必要な物を幼児達のとりやすいところに準備しておく。 〇卒園までの予定などが分かるようなカレンダーを作り、スケジュールを確認したりしながら見直しをもって活動できるようにする。 〇就学への期待が高まるよう、小学校の生活を見学したり、体験したりする機会をもつ。 ☆さまざまな楽器の音色を楽しんだり、友達と音やリズムを合わせる楽しさを味わったり、音階に興味や関心をもてるようにする。 ☆発表会では、様々な表現と一緒に考えていきイメージを膨らませながら楽しんで主体的に取り組めるようにし、自信をもって表現している姿を認め、達成感が味わえるようにする。 ☆自分の力を十分に発揮し、互いの良さに気づき協力し合いながら遊びを進め、充実感を味わえるようにする。 ☆これまでに経験してきたことを振り返り、関わってきた人への感謝の気持ちをもったり、成長した姿を認め自己肯定感を育んだりするなど、就学に向けて自信が高まるように支えていく。 		
		スタート期に育つ子どもの姿（4.5.6月） 幼小で共通理解	
		【新しい環境に適応して生活する力】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の食べる量が分かり、時間内に残さず、マナーを守って楽しく食べようとする。 活動が始まるまで（休み時間）にトイレに行くこととする。 素早く衣服の着脱、始末をしようとする。 手洗いやうがいの効果を知り、進んで実践しようとする。 集団生活をする上で注意しなければならない危険なことや交通ルールを理解し守って生活しようとする。 持ち物の整理整頓を習慣付け、見直しをもって行動しようとする。 掃除の進め方を理解し、一生懸命掃除をしようとする。 	
		【教科学習の基礎となる興味・関心や意欲・能力】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の名前が読めて書け、10までの数の意味や順番が分かるようになる。 自然にふれて遊び、興味・関心を抱くようになる。 歌ったり踊ったり、自分の感じたことを伸び伸びと表現しようとする。 自分がクラスの一員であることを感じ、集団行動の基本的な動きを知り、安全面にも気を配り、楽しく活動しようとする。 友達の話を聞いたり自分の思いを伝えたりして、楽しく協同的に活動しようとする。 	
		【友達や先生など身近な人と関わりながら思いを伝えあい、人間関係をつくっていく力】 <ul style="list-style-type: none"> 自分から挨拶や言葉を掛け、人と関わろうとするようになる。 自分の伝えたいことを相手に分かるように話そうとする。 先生の話や全体の指示を自分のこととして聞き、理解して行動に移そうとする。 友達の名前をしっかりと覚え、名前を呼ぶようになる。 トラブルの対処方法が分かり、自分達で解決しようとする。 地域の人、先生、上級生とふれ合おうとする。 	
		幼小連携の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 互いの行事に参加し合う。 小学生の姿を見る機会をもち、小学校入学への憧れを感じるようにする。 園の生活や遊びの取り組みへの理解を得、学びをつなげられるようにする。 幼児や保護者が感じる、就学に向けての不安を保護者と教師が教諭する。 小学校の教師と小学校の生活の流れについて情報共有を行い、幼児が学校生活のイメージが高まるようにする。 就学する小学校へ引き継ぎを行う。 	

		アプローチ期		
		5歳児 9月	5歳児 10～12月	5歳児 1月～3月
アプローチ期に身に付けたい資質・能力	知識及び技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 米作りやサツマイモの栽培を通して、収穫、調理、試食をすることにより食べ物に興味や関心を深め、進んで食べるようになる。(A) 竹馬に何度も挑戦することで、力の入れ方やコツがわかり自分の体を自在に動かそうとする。(A) (F) 	<ul style="list-style-type: none"> 洲本城探検では、友達と遊びの目的を共有し様々な気付きや発見を共に喜び合い、役割を分担したり協力したりしながら遊びをつくり上げる楽しさや達成感を味わう。(C) 地域の祭りに参加し、人との触れ合いを楽しみ、郷土愛を深める。(E) 三熊山の自然に触れ山登りでの遊びを楽しむと共に、災害時の避難場であることを認識する。(A) 地域に出掛け洲本の八狸に興味をもち、調べたり発見したりすることを楽しむ。(E) 	<ul style="list-style-type: none"> お話や物語を通して自然の厳しさや親子の絆、生命の尊さに気付き、大切にすることを覚える。(G) 友達と一緒に劇ごっこを楽しみ、遊びに必要な物を作る中で、数字や文字の役割に気付き、それらを使おうとする。(H)
	思考力・判断力・表現力等の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 竹馬や組体操などの運動遊びへの興味、関心を高め新たな自分や友達の力に気付き、やればできるという喜びを味わう。(B) ルールのある遊びの中で友達と競い合うことを楽しむ。(C) リレーなどの遊びを通して、自分の思いを伝えたり、友達の意見を受け入れたり同じ目的に向かって協力しながら、遊びを進めることを楽しむ。(C) (I) 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって、友達と試行錯誤しながらアイデアを出し合い、達成するための方法を考えるようになる。(F) 洲本八狸探検を楽しむ中でそれぞれの狸の特徴や違いに気付きその成り立ちに興味をもち調べようとする。(F) 季節によって変化していく山の姿に気付き、友達と一緒にその変化を言葉で伝え合うことを楽しむ。(I) 遊びの中で教師や友達の言葉に興味や関心をもち、聞いたり話したりすることを楽しむ。(I) 探検ごっこでは、友達と一緒に遊びに必要な物を考え、イメージを共有しながら素材や用具の特徴を活かして製作し、それらを使って遊ぶ。(F) 収穫した量を数えたり、大きさや重さを比べたりしながら、多い、少ない、大きい、小さい、重い、軽い等の言葉の意味を実感する。(H) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊びを進める中で、自分の役割を自覚し責任をもって果たそうとする。(B) 友達と遊びの目的を共有し、達成できるように相談したり協力したりして一緒に遊びをつくり上げていく楽しさや充実感を味わう。(C) 友達と楽しく生活する中できまりを守ったり新たにふたり必要に応じてつくり替えたりする。(D) 幼稚園生活を振り返り、教師や友達と今まで経験したことや一緒に考えて遊びを進めてきたことを言葉で伝え合い、大きくなった喜びを味わう。(I) 様々な経験の中で感じたり考えたりしたことを体や言葉で表現して楽しむ。(J)
	学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 根気よく取り組むことで目標が達成できた喜びを味わう。(A) 教師や友達に認められたり友達と支え合ったりする経験を通して、自分の良さに気付き自信をもって行動するようになる。(B) 友達の励ましを受けて意欲を高める。(C) 友達の気持ちを考えて提案したり言葉を掛けたりする。(C) 身近な生き物に親しみ、生命の大切さに気付く。(G) パレードや応援合戦では、チームのリーダーとして、一緒に遊びをつくり上げる充実感や達成感を味わう。(C) (J) 	<ul style="list-style-type: none"> 八狸探検に行く前にその日の目標を立てたり、道順を相談したりしながら、友達と一緒に狸を探し、見つけることで達成感を味わう。(C) (I) 楽器の正しい使い方が分かりみんなで大切に扱うようになる。(D) 自然と関わりながら、心や体で感じる体験を重ねて遊びに活かしていく。(G) 三熊山の自然の中で遊びながら、木の葉の色付きの違いや美しさに気付いたり、集めて並べたり、数えたりすることを楽しむ。(H) お店屋さんごっこでは共通のイメージをもち、遊びに必要な物(お金や看板)を考え、意見を出し合い工夫していく。(H) (J) 友達と経験したことや考えたことを伝え合う中で相手の考えを知ったり受け入れたりする。(I) 身近な植物の世話をすることで生長を喜び収穫を楽しみにする。(G) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に目的が達成できるよう話し合ったり協力したりする。(C) 自分の思いを伝えたり相手の気持ちを考えたりしながら行動するようになる。(D) 幼稚園生活を振り返り、自分が大切にされていることに気付き喜びを感じ、身近な人に感謝の気持ちをもつようになる。(E) 自分たちのイメージしたことを形にするために身近な物や用具の特性を活かしたり、使い方を工夫したりする。(F) 絵本や物語に親しみ、想像したことを友達と一緒に言葉で伝え合うようになる。(I)
幼児の活動				
○環境の構成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ☆幼児が挑戦したり試したりしようとしていることを丁寧に読み取り、意欲的に取り組む姿を認め、励ましていく。 ○幼児が興味をもって取り組めるように、竹馬やフープなどの道具を出し入れしやすい場所に準備しておく。 ☆米作りやサツマイモの栽培を通して、生長に気付き、収穫を楽しみ、食べ物を大切にすることを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆狸探しを楽しんだり、地域の行事に参加したりして、体験したことを活かしていけるように遊びの写真を掲示したり話しあったりする。 ○共通のイメージを実現していくために、遊具や用具、素材を幼児と共に整え、継続して遊べるように場の使い方を工夫する。 ☆自然物を集めたり、地図作りを楽しんだりしながら、文字や数、図形に触れ、それらを使って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ☆街作りでは、自分たちがつくった遊びの場に年下のクラスや、保護者を招待し、案内や遊び方を教えて、喜んでもらう充実感を味わう。 ☆地域に出掛け、自然の中で過ごす機会をもち、地域のことに興味や関心がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やりたい遊びや挑戦したいことに満足するまで取り組めるよう、時間の進め方や保育室の使い方などを幼児と一緒に考える。 ☆劇遊びでは、自分なりに表現している姿を認めると共に、みんなで1つの劇をつくりあげる喜びを味わえるようにする。 ☆幼児と共に園生活を振り返り、一人一人の成長を喜び合いながら、修了や就学への期待がもてるようにする。 ☆春の訪れを感じられるように、花の開花や木々の芽吹き、虫の様子などについての発見を友達同士で伝え合う姿を捉え認めていく。 	

		アプローチ期			
		5歳児 9月	5歳児 10～12月	5歳児 1月～3月	
アプローチ期に身に付けたい資質・能力	知識及び技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 米作りやサツマイモの栽培を通して、収穫、調理、試食をすることにより食べ物に興味や関心を深め、進んで食べるようになる。(A) 竹馬に何度も挑戦することで、力の入れ方やコツがわかり自分の体を自在に動かそうとする。(A) (F) 	<ul style="list-style-type: none"> 洲本城探検では、友達と遊びの目的を共有し様々な気付きや発見を共に喜び合い、役割を分担したり協力したりしながら遊びをつくり上げる楽しさや達成感を味わう。(C) 地域の祭りに参加し、人との触れ合いを楽しみ、郷土愛を深める。(E) 三熊山の自然に触れ山登りでの遊びを楽しむと共に、災害時の避難場であることを認識する。(A) 地域に出掛け洲本の八狸に興味をもち、調べたり発見したりすることを楽しむ。(E) 	<ul style="list-style-type: none"> お話や物語を通して自然の厳しさや親子の絆、生命の尊さに気付き、大切にすることを覚える。(G) 友達と一緒に劇ごっこを楽しみ、遊びに必要な物を作る中で、数字や文字の役割に気付き、それらを使おうとする。(H) 	国語・道徳 国語・算数 音楽・体育 図画工作 道徳
	思考力・判断力・表現力等の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 竹馬や組体操などの運動遊びへの興味、関心を高め新たな自分や友達の力に気付き、やればできるという喜びを味わう。(B) ルールのある遊びの中で友達と競い合うことを楽しむ。(C) リレーなどの遊びを通して、自分の思いを伝えたり、友達の意見を受け入れたりと同じ目的に向かって協力しながら、遊びを進めることを楽しむ。(C) (I) 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって、友達と試行錯誤しながらアイデアを出し合い、達成するための方法を考えるようになる。(F) 洲本八狸探検を楽しむ中でそれぞれの狸の特徴や違いに気付きその成り立ちに興味をもち調べようとする。(F) 季節によって変化していく山の姿に気付き、友達と一緒にその変化を言葉で伝え合うことを楽しむ。(I) 遊びの中で教師や友達の言葉に興味や関心をもち、聞いたり話したりすることを楽しむ。(I) 探検ごっこでは、友達と一緒に遊びに必要な物を考え、イメージを共有しながら素材や用具の特徴を活かして製作し、それらを使って遊ぶ。(F) 収穫した量を数えたり、大きさや重さを比べたりしながら、多い、少ない、大きい、小さい、重い、軽い等の言葉の意味を実感する。(H) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊びを進める中で、自分の役割を自覚し責任をもって果たそうとする。(B) 友達と遊びの目的を共有し、達成できるように相談したり協力したりして一緒に遊びをつくり上げていく楽しさや充実感を味わう。(C) 友達と楽しく生活する中でできまりを守ったり新たにつくったり必要に応じてつくり替えたりする。(D) 幼稚園生活を振り返り、教師や友達と今まで経験したことや一緒に考えて遊びを進めてきたことを言葉で伝え合い、大きくなった喜びを味わう。(I) 様々な経験の中で感じたり考えたりしたことを体や言葉で表現して楽しむ。(J) 	道徳 国語・生活 道徳 生活・道徳 国語・生活 道徳 国語・生活 体育
	学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 根気よく取り組むことで目標が達成できた喜びを味わう。(A) 教師や友達に認められたり友達と支え合ったりする経験を通して、自分の良さに気付き自信をもって行動するようになる。(B) 友達の励ましを受けて意欲を高める。(C) 友達の気持ちを考えて提案したり言葉を掛けたりする。(C) 身近な生き物に親しみ、生命の大切さに気付く。(G) パレードや応援合戦では、チームのリーダーとして、一緒に遊びをつくり上げる充実感や達成感を味わう。(C) (J) 身近な植物の世話をすることで成長を喜び収穫を楽しむにする。(G) 	<ul style="list-style-type: none"> 八狸探検に行く前にその日の目標を立てたり、道順を相談したりしながら、友達と一緒に狸を探し、見つけることで達成感を味わう。(C) (I) 楽器の正しい使い方が分かりみんなで大切に扱うようになる。(D) 自然と関わりながら、心や体で感じる体験を重ねて遊びに活かしていく。(G) 三熊山の自然の中で遊びながら、木の葉の色付きの違いや美しさに気付いたり、集めて並べたり、数えたりすることを楽しむ。(H) お店屋さんごっこでは共通のイメージをもち、遊びに必要な物（お金や看板）を考え、意見を出し合い工夫していく。(H) (J) 友達と経験したことや考えたことを伝え合う中で相手の考えを知ったり受け入れたりする。(I) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に目的が達成できるよう話し合ったり協力したりする。(C) 自分の思いを伝えたり相手の気持ちを考えたりしながら行動するようになる。(D) 幼稚園生活を振り返り、自分が大切にされていることに気付き喜びを感じ、身近な人に感謝の気持ちをもつようになる。(E) 自分たちのイメージしたことを形にするために身近な物や用具の特性を活かしたり、使い方を工夫したりする。(F) 絵本や物語に親しみ、想像したことを友達と一緒に言葉で伝え合うようになる。(I) 	国語・生活 道徳 国語・生活 道徳 生活・道徳 生活・道徳 生活・道徳 生活・道徳 生活 国語
幼児の活動					
環境の構成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ☆幼児が挑戦したり試したりしようとしていることを丁寧に読み取り、意欲的に取り組む姿を認め、励ましていく。 ○幼児が興味をもって取り組めるように、竹馬やフープなどの道具を出し入れしやすい場所に準備しておく。 ☆米作りやサツマイモの栽培を通して、生長に気付き、収穫を楽しみ、食べ物を大切にすることを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆狸探しを楽しんだり、地域の行事に参加したりして、体験したことを活かしていけるように遊びの写真を掲示したり話したりする。 ○共通のイメージを実現していくために、遊具や用具、素材を幼児と共に整え、継続して遊べるように場の使い方を工夫する。 ☆自然物を集めたり、地図作りを楽しんだりしながら、文字や数、図形に触れ、それらを使って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ☆街作りでは、自分たちがつくった遊びの場に年下のクラスや、保護者を招待し、案内や遊び方を教えて、喜んでもらう充実感を味わう。 ☆地域に出掛け、自然の中で過ごす機会をもち、地域のことに興味や関心がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やりたい遊びや挑戦したいことに満足するまで取り組めるよう、時間の進め方や保育室の使い方などを幼児と一緒に考える。 ☆劇遊びでは、自分なりに表現している姿を認めると共に、みんなで1つの劇をつくりあげる喜びを味わえるようにする。 ☆幼児と共に園生活を振り返り、一人一人の成長を喜び合いながら、修了や就学への期待がもてるようにする。 ☆春の訪れを感じられるように、花の開花や木々の芽吹き、虫の様子などについての発見を友達同士で伝え合う姿を捉え認めていく。 		

観察カードによる学びの可視化（相生市立平芝幼稚園の取組）

9月1日（金）	記録者	
5歳児	幼児名	M児、K児、N児
学び		<ul style="list-style-type: none"> ・状況を判断し、自分の思いを言葉にして伝える。（M児） ・友達に自分の気持ちに気付いてもらう嬉しさを感じ、思いを表現する。（K児） ・友達の思いに気が付き、寄り添う。（N児）
1 知識及び技能の基礎	②	思考力・判断力・表現力等の基礎
3 学びに向かう力、人間性等		
A 健康な心と身体	B 自立心	C 協同性
D 道徳性・規範意識の芽生え	E 社会生活との関わり	
⑥ 思考力の芽生え	G 自然との関わり・生命尊重	
H 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚		
⑩ 言葉による伝え合い	⑪ 豊かな感性と表現	
活動名：とんぼ氷鬼ごっこ		
<p>内容：とんぼの制作をした後、廊下でとんぼを飛ばしながら遊んでいた4人の女児。輪になりじゃんけんをしていた。「先生も入って。」と誘われ行くと、とんぼ氷鬼をしようとのこと。周りにいた幼児もしたいと遊戯室に集まり、全員でとんぼ氷鬼をすることになった。帽子を被っている子が鬼になり遊んでいると、K児が座り込んで泣いていた。遊びの振り返りの中でどうしたのかを聞くが、下を向いたまま答えない。N児が「上靴が脱げた時にタッチされて悔しかったん？」と聞くと、頷いた。すると、M児が「上靴が脱げたことに気付かんかってタッチしてもた。」と、話した。その後も話し合い、次回は転んだり上靴が脱げたりした時にはタッチをしない、転んでもすぐに立ち上がるといったルールができた。</p>		

② エピソードから幼児の学びを可視化する

③ 可視化した学びを3つの資質・能力に分類する

④ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とも関連付ける

① エピソードを記録し、その中から幼児の学びを読み取る

- ・上記の①から④の手順で学びの観察カードを記入する。
- ・可視化した学びや3つの資質・能力の分類、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連付けについて、作成したアプローチカリキュラムと比較する。
- ・観察カードから明らかになった学びと、アプローチカリキュラムにずれが生じている場合は、アプローチカリキュラムを修正していく。

幼小連携事例シートによる学びの可視化（養父市立伊佐こども園の取組）

こども園が記入

小学校が記入

幼小連携事例シート

幼小連携 事例 「秋の収穫祭をしよう！」 5歳児 11月	
ねらい ・収穫した野菜を友だちと協力しながら調理し、喜んで食べる。 ・調理器具の安全な使い方を知り、安全に気をつけながら使おうとする。	
子どもの姿	活動中での経験している学び（10の項目に）
<ul style="list-style-type: none"> 1年生との交流を前日より楽しみにしていた。最初はこども園の子ども同士くっついてしたが徐々に会話も弾み打ち解けた。 1年生を中心に誰がどの野菜を切るか、順番はどうするかなど決め、守りながらカレー作りができていた。 1年生の学習発表会での小話やドレミパイプの演奏を真剣に見ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の安全な使い方や扱い方がわかり、安全を意識し、使う。（健康な心と体） 難しいことにも根気よく取り組みできないところは工夫したり、先生や友だちの助けを借りたりして最後までやり遂げようとし満足感や達成感を味わう（自立心） 友だちと目的を共有し、目的が達成できるよう相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、友だちと一緒に作り上げる楽しさや充実感を味わう。（協同性）
5歳児の振り返り（感想など）	
<ul style="list-style-type: none"> さつまいもが硬くて切るのが難しかった。 猫の手が難しかった。 1年生と一緒においしいカレーが作れて楽しかった。 1年生が一人で大きな声で発表をされていてすごかった。 ドレミパイプがしてみたい 1年生が皮むきの時に野菜の持ち方を教えてくれてうれしかった。 	 <p>左手を切らないように気をつけてね。</p> <p>なるほど！ピーラーはそうやって使うんだね</p>

幼小連携 事例 「秋の収穫祭に招待されて」 1年生 11月	
ねらい ・園児と仲良く作業をするために、どうしたらよいか考えたり工夫したりする。 ・園児と関わり合いながら、困ったことを自分たちで解決し、楽しんで活動をする。	
児童の姿	活動中での児童の学び
<ul style="list-style-type: none"> 最初は緊張していたが、徐々に慣れてきて、園児に優しく声をかけていた。 カレー作りの準備をみんなで相談し、上手に役割分担をしていた。 遊ぶ順番を決めたり、遊び方を教え合ったりしながら仲良く遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年少者に対する関わり方を学び、優しさや思いやりの心を育てる良い機会であった。 園児と一緒に仲良く、楽しく遊ぶために、言葉かけを工夫したり、考えたりする姿を見ることができた。 学校生活の中では、一番小さい学年であるため擁護されることが多いが（園児との活動ということで）頼られる喜びを感じ、それに応えようとする姿が随所に見られた。 普段自信が持てない児童もリーダーシップをとることで、今後の自信につながればと期待する。
1年生の振り返り（感想など）	
<ul style="list-style-type: none"> さつまいもの皮むきが大変だったけど、すみれ組さんと一緒にカレーが作れて楽しかったです。 こども園さんからのプレゼントができて、お休みの日はずっとつけています。 久しぶりに、こども園に行ってみんなと遊べて楽しかったけど、最初は少し恥ずかしかったけど、慣れてきて、包丁の使い方が教えてあげたよ。 	 <p>そろそろしょうすだよ</p>

活動の中で経験している学び（こども園）

- 用具の安全な使い方や扱い方がわかり、安全を意識し、使う。（健康な心と体）
- 難しいことにも根気よく取り組みできないところは工夫したり、先生や友達の助けを借りたりして最後までやり遂げようとし満足感や達成感を味わう（自立心）
- 友達と目的を共有し、目的が達成できるよう相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、友達と一緒に作り上げる楽しさや充実感を味わう。（協同性）



それぞれの学びを明らかにし、伝え合うことで相互理解を深める

活動の中で経験している学び（小学校）

- 年少者に対する関わり方を学び、優しさや思いやりの気持ちをもつ。
- 年少者と一緒に仲良く、楽しく遊ぶために、言葉かけを工夫したり、考えたりする。
- 年少者から頼られる喜びを感じ、それに応えようとする。
- 年少者との活動の中でリーダーシップをとり、自分に自信をもつ。

- 交流活動において、互いのねらいを明確にするとともに、交流活動からどのようなことを学んでいるのかを検証していくことで、学びのつながりを見通すことができるようになる。
- 子どもの具体的な姿から学びを捉えることで、共通理解しやすくなるとともに、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」についてもイメージしやすくなる。

平成29年度 幼児教育支援事業

幼児教育支援委員会委員名簿

構成	所属	職名	氏名
学識経験者	神戸大学大学院	教授	伊藤 篤
	神戸松蔭女子学院大学	教授	寺見 陽子
	神戸親和女子大学	教授	澤田 愛子
幼稚園・こども園長会 関係者	兵庫県国公立幼稚園・こども園長会 神戸市立いかわ幼稚園	園長	松田 和子
実践協力園	芦屋市立伊勢幼稚園	園長	瀬山 久美子
	相生市立平芝幼稚園	主任教諭	森上 美由紀
	養父市立伊佐こども園	園長	黒田 恵美
	洲本市立洲本幼稚園	教諭	来田 千絵

指導の手引き

学びと育ちをつなぐアプローチカリキュラムの作成

平成30(2018)年3月発行

編集発行 兵庫県教育委員会